

五冠棋士の清楚な妻と生意気な女流棋士を  
ムラムラしちやった童貞の俺が盗撮ルイブ



女流二段・大野千里

有名棋士の妻・塔矢明子

清楚な人妻と女流棋士が  
落ちぶれプロ棋士の男に密かに盗撮されオナペットに  
暴走した男の毒牙に女流棋士が  
そしてその毒牙は

ああ……明子さん……！！  
今日は出会えた！  
相変わらず美しい人だ……

俺もいつか、俺に相応しい  
こんな女と結婚するのが夢だ……  
それまでは……クツクツ……！！

囲碁のプロ棋士三段であるその男、戸田数馬は、  
同じくプロである五冠・塔矢行洋の邸宅前を通って  
コンビニへ朝食を買いに行くのが日課となっていた。

その目的は、男が見初めてしまった女性。

在宅時には早朝に塔矢家の前を掃き掃除している  
塔矢行洋の妻と出会う為……塔矢明子と出会う為だった。

出会うと言っても、男は帽子を深く被り顔を隠すようにして通りすぎていただけだし、  
明子も男の事は全く記憶になかった。

しかし、男にとって、それは逆に都合のいい事だった。



よし、それじゃ早速  
スマホのカメラアプリで：

明子さん：ハアハア！！  
き、今日もオカズ用に  
撮らせてもらいますよ！

初めは明子を目見るだけで心を踊らせていた男だった。

しかし、  
清楚ながらに色香を漂わせる人妻である明子に対し  
恋心よりも色欲が勝り始めるまで。

スマホで明子の姿を盗撮しオナニーする様になるまで、  
さして時間はかからなかった。

なっ!?!  
ま、マズイ!

こっちを見られた：  
撮ってるのを気づかれたか!?!

割烹着姿で掃き掃除をする明子へ何気なくスマホを向け、  
いつものようにカメラ機能で写している最中、  
不意に明子のジツと見るような視線がレンズへ向く。


男の身体は緊張で強張った。

だ、大丈夫だ！

：あ、焦ったぜ！  
もつと気をつけないとな！

明子の視線が外れ、安堵する男。

内心激しく動揺しながらも  
掃き掃除を続ける明子の前をそのまま通り過ぎすぎると、  
すぐに自宅へと足を向けた。



全く、今日は焦ったが：  
ハアハア：

うっ！うう！お陰で  
い、イイのが撮れた：

早速成果を確認し、興奮する男。



：あ、明子さん！  
うっ：ハアハア！

そ、そんな、うう！  
見つめられたらっ！

自宅にて、  
今朝撮ったばかりの画像を早速印刷し、朝から明子をオカズに手淫を始める男。



あ、明子さんの、唇をっ  
俺の：チンポツ 我慢汁でッ

おふう！いくう！いくう！  
汚してやる！汚してやるう！

年収1億を超える夫を持つセレブであるにもかかわらず、  
気品と謙虚さを合わせ持つ女性として、プロの囲碁仲間の間でも明子の評判は非常に高かった。

自分以外にも明子さんに惚れてる奴が居るに違いない！  
一体、この女性は、どれだけの男の精液をこうして無駄に消費させたんだろうか！

己の肉棒を激しく擦り上げながら  
チン先からあふれてくるカウパーを印刷した明子の唇や顔に擦りつけると、  
明子へのレイプ願望がふつつと湧き上がる。  
男の射精感は急速に高まっていった。





くふうふう！あ、明子さんっ  
あふうふう！あふうふう！

ハアハア：ふうふう  
き、今日もたっぷり、  
絞り取られましたよ…

ある意味日課とも言える朝のオナニーに満足しながら、  
男は別の印刷した明子にキスをし、  
ボソッとつぶやいた。  
明子さんとセックスしたい…



おやー！

?!

千載一遇、いや万載一遇とも言える、  
思いもがけない出来事だった。

夏の早朝に吹いた、心地良くも強い風が  
明子さんのロングスカートを見事に舞い上げ  
魅惑の下半身を曝け出させた。


風のいたずら、いや、これは神風か。  
未だに童貞を貫く一途な俺に対する  
オナニの神からの贈り物かも…。

神もガードの堅い  
この貞操な人妻のふともも、  
そして下着を見たくなくなったのかもしれない…。

初めて目の当たりにした明子さんのふともも  
そしてパンツ：  
明子さんのパンツ：ハアハア…。

見たぞ：そして撮った！  
画面は確認できなかったが、  
ちやんとあの脚にレンズを合わせたはずだ！！

俺は路地を曲がると、  
急いでスマホの映像を確認した。



も、もう少し下だ！  
ちやんと合わせただはず！  
撮れてるはずだっ！

頼む！頼む：！  
あ、明子さんのパンツ！

緊張でスマホを持つ手が震える。  
神にも継る気持ちで男は次の画像を表示させた…。



クソツッ! : 慌てなければっ!  
絶対撮れてたのにつっ!!

明子さん! : 明子さんの太もも!  
ぱんツ! : 確かに見たのにつっ!

ぱんツが何色だったかすら  
あやふやにしか思い出せないっ!  
く、クソおとおおツ!

その日の午前、某棋戦の予選リーグ。  
大部屋で他の対局も行われている中、男は女流棋士と対戦していた。

しかし、  
男の頭の中は今朝の出来事の失敗で埋め尽くされ、  
盤上はポロポロであった。

駄目だ、集中できない、  
盤面はボロボロだ！

くっ、こんな低段の女流棋士に…





くそっ、この女：  
大野とか言ったか：

…デカイ胸しやがって  
畜生：ムラムラする

対局者の女流棋士二段・大野千里

服の上からでもわかる、  
むしろ強調されているかの様なそのたわわな胸に  
男の視線は釘付けになった。

…ゴホン

ハッ!? し、しまった!  
女の胸をずっと見てるのがバレた…

威圧感のある大野の咳に男はハッとして、慌てて視線を盤上へ移す。  
チラッと大野の顔を伺うと、  
大野の不快そうな視線が突き刺さり、  
自分の目線の先が明らかにバレた気まずさで顔から火が出そうになった。

クソツッ! : 慌てなければっ!  
絶対撮れてたのにつっ!!

明子さん! : 明子さんの太もも!  
ぱ、パンツ! : 確かに見たのにつっ!

パンツが何色だったかすら  
あやふやにしか思い出せないっ!  
く、クソおとおおツ!

セクハラ行為にキツイ目線を送ってきた大野に対し、男は冷や汗をかきながらも生意気に思った。

(圧倒的に優勢だからって調子に乗りやがって  
あの出来事がなければこんな女・いや、あれが撮れてさえいれば...)

この恥を味わっても尚、今朝の出来事で得ていたはずの、  
塔矢明子のパンチラ画像という幻のオナネタが頭から離れない。

(この女、よく見れば明子さんみたいなオレ好みのショートヘア、顔もなかなかだ...決めたぞ)

男の思考は盤上を逆転する1手よりも、  
このやり場のないムラムラを発散できる1手を求め、その打ち先を定めた。



(対局中にスマホは弄れない、チャンスは休憩時間…)

本来ならとっくに投了しているべきにも関わらず、男は無駄な手を打ち続ける。

大野は不可解さと不快さが織り交ざった視線を度々男へ向け、

男もそれに気づいていたが、大野をオナネタにする

と決めた時から、その睨んでくる顔を撮って汚してやりたいとすら思うようになり、対局中、勃起し続けた。

そして、男は午前の対局を乗り切った。

俺はどうにか粘り、休憩後の対局が始まる前、正面からこの女の顔をカメラに収める事に成功した



だいい加減投了するか：内心怒ってるだろうな！  
だが今日はお前を：俺の精液で：くうううう！

バレずに大野を正面から撮ることに成功した男は、  
囲碁で無様とも言える大敗北を喫する事になったにも関わらず、  
別の難局を乗り切った充実感に満ちていた。

そして、  
男の頭の中はすでに大野を汚す事で一杯になっていた。



あ、ありません。  
ありがとうございました。

…ありがとうございました。

対局再開後、あっさり投了した男に対し、大野は怪訝そうな顔を見せ軽くため息をついた。

休憩時間中に手が無い事を悟り、再開後にすぐ投了すること事態は不思議ではなかったが、この男の場合、対局中からあまりにも不可解な諦めの悪さで異質すぎた。しかし、大野がその理由を知る由もない。

（ため息つきやがって、な、生意気な女だ…家に帰ったら汚しまくってやる…）

二人は碁石を片付け礼をし、大野は席から立ち上がり足元の荷物を持った。そして、対面する男の目に飛び込んできたのは…

うっ！？

ううっ…

く、クソツツ：  
この女…うう

ハア…ハア…



投了の後、  
スマホに収められた画像を確認して  
視線を上げると、  
俺の眼前に突き出されるように  
スカートに包まれた大野の尻が  
飛び込んできた。

早く帰ってオナニーする事に集中していた  
俺の欲情に再び火が付く。

大野の突き出された  
スカート越しのエロ尻を  
素早くスマホのカメラで収めた後、  
俺はギンギンに勃起した股間をカバンで隠し、  
退室していく大野の後をさり気なく追いかけて、  
大野の下半身に向けて  
何度もスマホのカメラを向けた。

そして、大野が下駄箱で靴を取り出すために  
中腰の格好で屈み、  
再び尻をつきだしたその姿を見て  
俺の頭の中で何かが弾けとんだ：



ヒヒっ！や、やっちまった！  
ハアハア：あの大野とかいう女！  
なんて下品なパンツ履いてやがる！  
うう：この尻：た、たまらんっ！

さっそく印刷だ！  
尻にぶっかけてやる！  
よ、汚してやるぞ！

帰宅後、パソコンの画面に映しだされた、大きなその映像に男は手を叩いて狂喜する。  
やっちまった：ついにやっちまった！！！！

別にこんな事をするつもりは無かった。  
前かがみになった大野千里を見た瞬間、  
衝動的にスカートの下へスマホを差し入れ撮影ボタンを押してしまったのだ。

男はその直後、触ってもないのに少し射精してしまっていた。  
すでに今朝の大失敗や今日の対局は忘れており、  
男の頭の中は大野千里を汚す事一色に染まっていた。

二段士流女  
千里大野

くうううううううう興奮する！  
まさかっ、うっ！うっ！  
こゝこんな収穫があるとは！

あっ！あふうう！  
ううっ！お、大野っ！

30分後、すぐ抜きたい衝動を我慢に我慢をしながら、男は力作を完成させた。

先刻の射精漏らしと製作中の我慢汁でベトベトカビカビになった下着から、その一物を開放し、火が出るような勢いでさすり上げはじめる。

二段士流女  
千里大野

まず、ズボンにチンコをツ  
ど尻穴もだ！おっ！おほっ！  
どうだ！おっ！おほっ！  
！低段のメス豚がっ！

おほほおほ！！  
い、イクイクっ！！  
ち、千里！千里おっお！！

大野千里のムッチリとした尻にパンツがピチッと張り付き、食い込みが尻の形をより強調し、男を劣情を挑発した。クロツチの部分だけ少々色が違うお陰で卑猥さも増し、よく見れば大野の性器の割れ目にも食い込んでいる。

たまらず肉棒をその食い込みにスコスコとこすりつけながら、大野をレイプしている妄想をすると、チン先から止めどなく出る我慢汁がその印刷された股間にシミを作る。

男は大野を汚す言葉を投げかけながら、絶頂に向かってひた走った。

二段士流女  
千里大野



うっつ！うっつ！  
うっつ！うっつ！  
うっつ！うっつ！  
うっつ！うっつ！  
うっつ！うっつ！  
うっつ！うっつ！  
うっつ！うっつ！  
うっつ！うっつ！

ハアツ…ハアツ…  
これは…し、絞られたぜ、  
クソオ、大野：千里か…

その日、  
男は大野千里を激しくレイプする妄想をしながら、  
何度も紙面の大野を汚し、  
精液が枯れるまでヌキまくった。

居たぞっ居たっ：！くっくっくっく  
またスカートの中を撮ってやる：

ハア：ハア：ち、千里：  
お前の尻で抜いてやるからな：

スカート姿の大野千里を見ただけで  
充血しだす男の股間。

姿を見ただけで勃起してしまうのは、塔矢明子以来二人目である。  
男はすっかり大野千里自体に欲情していた。



んんっ!!  
んんっ!!  
んんっ!!

ハア!ハア!  
クソっ!!あ、暴れるなっ

おっ、おっおお!  
お、おっばいって…  
こんな揺れるのか…ハアハア…

抵抗する大野千里を押さえつけながら股の間に身体を割りこませ、  
大野の服を脱がしにかかるが、その行為は難航した。

大野は自分の服を脱がそうとする覆面男の目的を察して  
混乱と恐怖におののきながらも必死に抵抗し、  
男はその想像以上の抵抗の激しさに、大野の身体や腕を押さえつけるのが精一杯だった。

5分、10分、  
抵抗に疲弊しだした大野の隙をみて、一枚、また一枚と必死で脱がしていく。

途中、玄関先で話声があった時、男の心臓は跳ね上がった。

口に貼られたガムテープをはがし、  
明らかに助けを求めようとした大野の口やらを  
必死で何が何だかわからないまま滅茶苦茶に押さえつけ、難を乗り切る。

んんっ！  
んんっ！  
んんっ！

ハア！ハア！  
クソっ！あ、暴れるなっ

おっ、おっおお！  
お、おっばいって…  
こんな揺れるのか…ハアハア…

多少ドタドタと音を出されたが、  
通行人も一枚ドアを隔てた先で女性がレイプされかけているなど、  
夢にも思わないだろう。

いよいよ大野のパンツを片足から脱がす事に成功したのは  
襲いかかってからおよそ15分後で、  
二人の身体は暑さや疲労、興奮、恐怖や緊張、  
それぞれの感情が織り交ざった汗でぐっしりと濡れていた。

大野の柔らかなヘアを下腹部に感じた時、  
男はいよいよその状態になってこの女とセックス出来ると確信し、  
また、ついに童貞を捨てられる事に  
ゾクゾクとする昂ぶりを覚え

自分のズボンと下着をずり下げてその怒張を露わにした。

あ、暴れるだろって  
言ってるだろって!!

ぐぶうっ!!?  
かっ...がはっ...

くそ、思わず腹殴っちゃまった...  
何処だ!?! うっ!!  
畜生! 上手く入らん、

ハ...ハ...

うっ!くっ!  
擦ってるだけで爆発しちゃう、  
焦るな...くそっ...クソツツ!

気色の悪い熱を帯びた男のいきり立つモノを自分の秘所へ当てがられ、  
大野は挿入されかけてる焦りと恐怖から  
再び脚をばたつかせて激しい抵抗を始めた。

男は大野の両手を押さえている状態のまま、  
下半身の動きだけでその怒張を押し込もうとしたが、  
抵抗して動く大野に上手く入らず、時間だけが経過していく。

男は大野を早く犯したい焦りと、  
自身の童貞を小馬鹿にされてるような劣等感や対局での大野の態度を思い出して、  
思わず大野へ殴打を振るってしまう。



んぐうーっ  
んーっ  
うっ!!

お、おほっ! お、おお!  
アア: 入った!!  
つ、ついに: ど、童貞卒業...

んーんーっ  
んーんーっ  
!!

こ、コレが: 女の: うう!  
お、大野千里の: っ、くっ!  
ま、マンコ: の: な...

腹部を思いきり殴られた痛みと苦しさで恐怖に  
大野は身体を震わせ抵抗を止めた。

男はその隙を見て挿入しようとしたが、やはり上手く入らない。

男は悪態を付きながら震える手で自分の息子を握り、  
赤黒く充血した自身の先端を大野の女の部分の入り口へとめり込ませると、  
大野の体温を肉棒に感じながら、  
ようやくそのまま腰を押し込んでいった。

ウウッ…うっ！

おっ！…うっ！  
おおっ…ハアハア…

…っ！…？

大野の女性の部分に28年間モノの童貞チンポをねじ込む事に成功し、  
女を知った感動に打ち震えていた男が、  
突然、低い呻き声を上げブルツと身体を震わせる。  
男は気味の悪い声を上げながら腰をビクビクと痙攣させた。  
大野は男がどういふ状態なのか悟り始めると、  
驚愕と絶望の表情を浮かべた。

い、入れただけで：  
うち、つた：ヒヒッで：  
フウ：フウ！

ハアツ：ハアツ：  
いっ：そ、その顔っ：  
うう！：たまんねえ！！  
う、動くぞっ！  
レイプしまくってやる！

んんっ：うっ：  
んんっ：うっ：  
んんっ：うっ！



んーっっ…  
ンゲツッ!…っ!

ほらっ…ど、どうだ?  
レイプされてるんだぞ!  
ハアツ…ハアツ…

ひぐう…うう…!!

くうっ…大野のマンコが絡みつく…  
チンポが熱い…痺れて…溶けそうだ…  
畜生、上手く腰が…もどかしいっ…!  
ムンっ…フンツッ!くふうううう…  
大野…気持ちいいっ…気持ちいいよう!

男のイチモツは大野の膣内に大量射精してもなお勃起し続けていた。  
男はヌカズの状態で腰を思うがまま自分本位に動かし始める。

廊下で大野のくぐもった悲鳴が響くと、  
男は大野の表情を見て、  
この生意気な女を今レイプしているんだと実感し、  
レイプの醍醐味を覚えるのであった。

おほっ!!!  
おっ!おっ!!  
で、射精るっ!!

うう!うっう!  
お、大野:千里おっ!!!

男は当然のように大野の子宮へ己の精子を放出する。

こ、こんな気持ちいいモノを外に出すやつがいたら、  
只の大馬鹿だぜ!

数日前に胸を見つめられた程度で睨んできた  
生意気な女流棋士を押し倒してレイプし  
膣内射精して子宮に精子を注ぎ込む。

この中出しの瞬間の支配感と興奮はあまりにも衝撃的で圧倒的であった。



はぁ…はぁ…

ハアハアハア…  
小便漏らしやがって…  
このメス豚が…!!  
フンツ!ムンツ!!

お!おっ!また射精るうっ!  
中出しっっ!孕ませるぞっ!  
イク、いっくううう!!

当初、犯したらすぐにその姿をスマホで撮って逃げるつもりだったが、男はすっかり大野を犯す快楽の虜になっていた。  
一度、大野の顔にかけようとして抜いた瞬間に出てしまったが、都合4回目の中出し。

その異常とも言える性欲が大野千里を放心状態から失禁させるまで追い込むのに、さして時間はかからなかった。

チュプっ  
チュツ!  
チュツパっ

むふう!  
むふううん…

はあ…はあ…

は、反則だろ…  
このおっぱいは…!!

ジュルるっ!!  
チュパ!!

薄暗くなった大野の自宅の廊下  
男はまだ家を出て行かず、大野の身体を楽しんでいた。

ハアハア：  
ち：千里お：  
妊娠させてやる：

...

ううっ！  
ううっ！  
ううっ！  
ううっ！

...





大野千里をレイプし始めてからかなりの時間が経った  
すでに日は落ち、始めからかなりの時間が経った  
窓からぼんやりとした外の明かりのみが室内を照らす  
28にして童貞を卒業した俺にとつて  
大野千里の体はあまりにも魅力的すぎた

ほどよく肉付かれた柔らかかな肌がおりなす女体に  
己の身体を密着させ強く抱きしめるだけで  
全身が心地よい幸福感に包まれる

確かに、これは童貞は哀れに思われても仕方ない。  
こんな女を支配する、この圧倒的な精神の充足は  
オナニーでは得られない、この圧倒的な精神の充足は  
囲碁で高段者に完勝した時のような得難い快感：！  
セックスがこのね伏せのような支配感は  
：レイプ以外で味わえるのだろうか？  
：どっちらかにしろ、俺がこの女とセックスするには、  
こうするしか手はなかった。ただろうが：

完全に抵抗を諦め、為すがままの状態になった

千里の唾液を舐め取り、舌をからめる。お返しに俺の唾液を流し込む。

俺は夢中で千里の唇を貪った。  
そして、長いディップキスを終えると、  
ある意味メイディップキスともいえる、  
大野千里の巨乳おっぱいの攻略にとりかかる。

両の手でそれぞれ乳房をいやらしく揉みしだき、  
右の乳首を口でついばみ、舌でねぶり、音を立って吸い上げる。  
執拗に舐めまわし、歯で甘咬み、本能のまま攻め立てる。  
そして、次は左の乳首を攻め立てる。

しかし、放心状態の千里の反応は薄かった。

畜生：おっぱいを集中すると

腰を動かすのを忘れちゃうと、む、難しいな：

それにして、なんでもと喘がないんだ：

こんな巨乳だったらおっぱいが弱点なもんだろ！

自分から攻めてるのにおっぱい千の喘ぎ声を聞きたい：

まあいい、この女でとことん練習だ：俺の本命は：


この女でとことん練習だ：俺の本命は：

いたぞ、居たっ!!

塔矢先生は中国の棋戦、  
息子のアキラも地方に出て  
今日は帰ってこないはず:

大野千里をレイプした男の次の目的は無論、  
塔矢明子をレイプする事であった。

夫の塔矢行洋や息子の塔矢アキラのスケジュールを調べあげ、  
明子さんが一人で在宅する可能性がある日を探り、  
その日の早朝は必ず塔矢家の門戸が見える場所で張りこんだ。  
そして、その日はついやってきた…。



長期戦も覚悟したが、  
まさか夏の間にも  
このチャンスが訪れるとは：

焦るな、最初が肝心だ！  
最初をしくじったら終わる！  
慎重に行動するんだ！

明子さんが俺に背を向け、自宅前の道路を掃いてる隙を見て、俺は門戸からスツと玄関先へ入り込む。玄関までの長い距離に収入の差を感じながら、小走りです早く玄関の引き戸式ドアに手をかける、カラカラと音を立てて開くドアに興奮を覚えながら、邸宅内へ侵入すると、俺は廊下に面した居間へと身を隠した。よしっ：よしっ！

明子さん以外に誰もいないとわかって、いるから出来るシンブルかつ大胆な侵入方法が成功した。俺は何度もガッツポーズをした。

呼吸するたびに感じる、寺のような厳かさすらある塔矢家の匂い。自分の家とはまるで違う、しみつたれた生活臭を感じさせないこの空間に、レイプ目的の不法侵入という犯罪行為をしている事を自覚すると、俺は罪悪感よりも一層の興奮を覚えてしまった。

着ていた服を全て脱いでから覆面を着け、永遠に感じた10分の後、カラカラと開くドアの音に俺の心臓はドクンと高鳴る。家に戻ってきた明子さんが玄関に鍵をかけ、サンダルを脱ぐ音をたてる。そして、板張りの廊下が軋む音と明子さんの澄んだ鼻歌が近づいてきた。

全く、気づいてない：全裸に覆面の強姦魔がそばに潜んでるとも知らずこれからの男にレイプされるとも知らず：ズキズキするほど勃起したチンコの先からは、早くも透明のカウパーがダラダラと垂れ落ち、塔矢家の畳を一足早く汚していく。

俺は下腹部に例のジリジリとした軽い射精感をおぼえながら居間の入り口に面した所まで明子さんが来るのをジツと待った。

そして、俺は明子さんが視界に入った瞬間に居間に引きずり込むと、そのまま畳へ押し倒した：

きゃあああつー!!!

わ、ワキい!  
明子さんのワキマンコお!  
んむうレロっ!!レロお!!

や、やめっ!!あ  
や、やめっ!!あ  
だ、だめっ!!あ  
誰かっ!!あ

男は悲鳴を上げる明子に構わず己の裸体を密着させ顔をつけると、  
何度も深呼吸してその心地よさすら感じる明子の微香を嗅ぎまぐる。  
スカートをまくり上げ、  
露出した艶やかなその脚へ覆いかぶせるように己の足を絡ませると、  
吸い付くような明子の肌の感触が男に伝わる。

(思えば、この脚のせいで俺は狂ったんだ...)

明子のワインレッドの衣服を乱暴に破き、露出した脇をペロペロと舐め始めた。

だ、誰も居ないんだろ？  
知ってるんだぞ：ヒビ

なっ…

それにこれだけ家が広げりゃ、  
外の誰にも聞こえねえ：  
逆に嫌ってほど声出させてやるよ…

あ…あ…い、嫌…



お、おっホオ!  
ちんぽおっ! ハマったあ!  
す、スコスコおっ! おっ、おおっ!

あ、熱い! な、何! え!  
い、嫌い! ああ、あああ! ああ!

明子さんのフトモモ... ま、まん肉う  
す、すごっ! スベスベ... 柔らかっ!

ハアハア! おっ! おお!  
ハアハア... おお!

唯一動く右腕で男の手を抑え、スカートを戻そうと必死になっていた明子は、自らの股間部分に擦り付けられる熱い異物を感じ、そのおぞましいモノを見て悲鳴を上げた。

貞操な30代の子持ち人妻の尻の柔らかさを味わいながらも、窮屈に折りたたまれていた男の獣が、より居心地の良い場所を見つけて歓喜に脈打つ。明子の股間にすっばりと収まったその獣はさらなる悦楽を求め、前後へ律動を開始した。

信じがたい気色悪い行為に明子の全身に鳥肌が立つ。脇を舐められているのも忘れ、閉じた脚を開いてそのモノから逃れようとするも、男が上から被せてきた脚に阻まれた。

そして、男の口から気味の悪い声が漏れた。



ううううううっ!!

あ……あ

おふう：おふうっ!  
ハアハア：あ、明子さん：  
で、出ちゃった：

……う、嘘っ……これ……あ

明子の下着と太ももが織りなす極上の感触に汗でジットリと濡れた明子の脇の味わいがプラスチックの味が喜びと降参の咆哮を上げ痙攣すると、白濁の液体を吐き出した。

明子の素股の前に男は数十秒で呆気無く果てた。

股間に擦り付けられていた男性器の先端から粘質の液体が噴き出る光景は、貞操な女性にはあまりにもおぞましかったです。シヨックで声が入らず口をバクバクさせ、身体を震わせる明子。

男は、充実感ある射精の余韻を味わいながら明子へ耳打ちをした。



ふうふう！  
口でしゃぶってもう1回  
ドピュドピュ射精させろっ！  
そしたら、  
此処から出て行ってやる！

こんなのを：  
く、口でなんて：

いい嫌：出来ない：  
ど、どうしたら：  
どうしたらいいの：

男は震える明子へフェラチオを要求した後、  
すぐ69の体位へと移行した。

未だにショックを受ける明子の眼前に  
ピンピンに反り返る男の醜い異型が鎮座し追い打ちをかける。

ああああ！何してるんだよっ！  
は、早く口に咥えろっ！  
手で優しく握ってシコシコさせて  
口でイヤらしく  
チュパチュパしろおおお！！

はあ…はあ…

平和な朝に突然に訪れた悪夢

自宅で突如覆面の男に襲われ、  
脇をベロベロに舐められながら強制的な素股で射精され、  
眼前に反り立つ男性器を突きつけられ、それを口での行為で射精させろという  
生理的嫌悪感しか湧かない変態的な要求。

何よりも、男のソレはグロすぎた。  
夫とはまるで違う、明子にとってはまさしく異型の畏怖の物体だった。

射精したら出て行くという先の男の言葉は聞こえていたが、  
混乱と恐怖で身体は硬直し続ける。

全く動こうとしない明子に男は怒気を含んだ声を上げた。

ハアツッ！ハアツッ！  
な、なんて眺めて眺めた！  
なんて眺めたっつ！！

明子さん：！フウツッ！フツッ！  
明子さんの：イヤラシイ尻が：  
あ、あああッあああッ！  
ハアハア：目の前につっつッ！

ああ、それにこの柔らかい尻！  
：夢の様だ、あ、明子さん！

あ、頭がおかしくな：  
：うう！？くっくっ：出：  
が、我慢しろ：くっくっう：

シックスナインの体位から見る男側の視点。  
その眼前に広がるそのあまりにも強烈な光景。

塔矢家に侵入してからこれまでの時間、他人が自分の体を操っているかの様な、  
どこかフワフワとした夢をみている感覚だったが、  
男は両の手で、その完璧な形の尻を撫で回すと、これが現実である事をハッキリと認識した。

五冠・塔矢行洋の妻 脅威の新人・塔矢アキラの母

憧れの：塔矢明子の尻だ：

それを意識した瞬間に、溢れ出した脳内物質が強烈な射精感呼び込んだ。

ひいっっ!?!?

お：早くしろ  
お：犯すぞ…

…あ…あ…

突如、男のモノがピクンと跳ねると、  
亀頭の先からヌメヌメと少量の白濁が溢れだす。

明子は驚きのあまり息を飲み、  
このまま状況が悪化してしまうことを恐れ、ついに覚悟を決めた。

んっ、んんっ…チュパ

おほお!! おっ!! おおっ!!  
あ、明子さんっ!!  
く、啜えてるのか!!?  
俺のチンポをつっ!!?

んっ…んんっ…

あ、明子さんの…く、口い!!  
おほお、あ、暖かい…いいイっ!!

お、俺も：ハアハア!  
お返し：うう!  
し、しないとな!

明子は男のおぞましく隆起した竿の根本を握ると、目を瞑ってソレを口に啜えた。

先ほど溢れでた少量の精液の味に吐き気を覚えながらも、早く終わらせようとする明子。

しかし、そのぎこちなさが、貞操な人妻の、その淫らな行為の経験の乏しさを物語っていた。

あ、明子さんの  
生パンツの匂い！！！！！  
プふうユツ：むふういううう！！！！

んぐう！？

すはー！すー！ぶふう！  
むふう！レロレロ！  
むちゅ！レロおろっ！

んっ！…んんっ！？

あの明子が自分のチンポをしゃぶっている事に興奮した男は、  
顔を明子の股間にうずめ、  
パンツ越しに思い切り口と鼻を使って深呼吸を繰り返す。

明子の香りを心ゆくまで堪能すると、  
次は舌を使ってペロペロと舐めまわし始めた。



プフウ…！ふう…ふう…  
み、見てやる…見てやるぞ…


これを…うう…！！  
め、めめ、めくれれば…  
明子さんのアマンコが…ゴクッ  
ハアツ…ハアツ…

ペロペロに舐め回され、男の唾液でべっとりと濡れた明子のパンツ。

実はわざと自分自身を焦らしていた男だったが、  
いよいよ我慢ができなくなり、  
期待と不安を入り交えながら明子の秘所を暴くことにした。

あの明子さんがグロマンなわけないよな…た、頼むぞ…

男は左手で明子の下着を横から指に引っ掛けると、  
そのまま左へ、ゆっくり、ゆっくりとずらしていった。



ハアツ！ハアツ！ハアツ！  
こ、コレがっ：明子さんの：ゴクツッ！  
くうう！美人は肛門も綺麗なのかよ！

…だけど、清楚な人妻も  
ここの毛は随分下品なんだな…！！  
処理してないのか：ヒヒっ…！！

30代の子持ちとは思えない、理想的なピンクのラビアに男は息を飲み込む。  
そして、嬉しい誤算もあった。





陰毛も：ち、ちゃんとしゅ、手入れしなきゃ駄目だろうが！  
しゅ、淑女の嗜みだろう！

くっくっく！あ、明子さん！  
人に見せないからって、ううう！！  
ええ？何だよこれは？ヒヒッ！

気品と清楚をあわせもつこの人妻が見せた、思いもよらない怠惰な陰毛。  
男は明子の弱みを握った様な気になり、歓喜しながら明子を罵った。

自分の性器や肛門を男に見られている事、陰毛の処理の事：

明子はあまりの恥ずかしさに、消えてしまいたい気持ちになりながらも、男を早く出て行かせるためにフェラチオを続けた。

も、もっと口をすぼめて、  
手をシコシコさせろ！

ムグッ！ジュプチュプ！  
ムプッ！シツプんっ！

あゝ、いいっ、ハアハア、  
明子のマッコ、明子のフェラ、  
たまらん、たまらん！

うう！うっ！  
憧れの人妻が！  
あの年収1億超えの  
塔矢行洋の妻：明子が！

たかが年収500万程度の  
低段棋士の俺にフェラチオを！  
俺のチンポをしゃぶってる！

明子の唇、舌、口腔の温もりを股間の敏感なアンテナで楽しみ、  
そこからもれる明子の声とフェラの音を味わう。

そして、男は手にとったスマホに明子の写真を映し、  
この女がフェラチオをしている、  
この女の性を視姦してやっけるといふ認識を脳に与え、  
興奮にさらなる刺激を与えた。

こんな至福の時間を味わって良いのか：男は産まれてきた事を初めて感謝した。

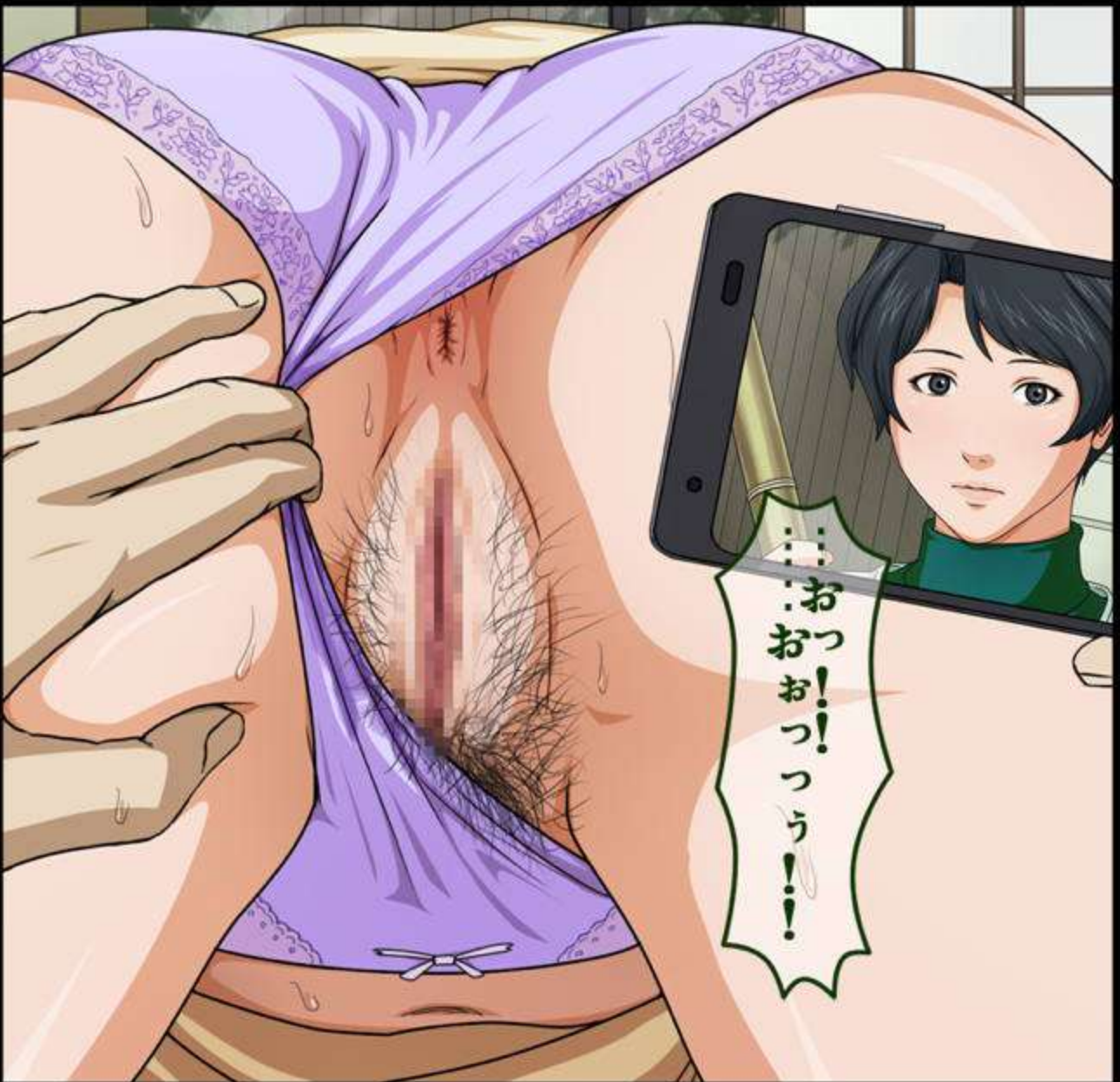


ハアハア……!!  
明子さん……うっ!!  
明子さん……明子さん  
あき……うう……明子……!!

で、射精るう!うっ!!  
絶対に口を離すな!うっ!!  
俺の精液を……全部飲めっ!!

んっ!うん!ん!ん!ん!

尿道に上がってくるあの感覚が男に限界を知らせた。  
不器用でぎこちないフェラも、  
あの塔矢明子がフェラチオをしているという事実だけで男には十分だった。



男は腰を震わせて明子の口へ遠慮無く射精した。  
スマホに映る明子の顔を見ながら、  
明子のヒクつく肛門を見ながら、  
明子の口の温もりを感じながら、  
2度、3度、ピュルピュルと精液を放出し続けた。

飲み：俺の精液：飲み！  
はああ：最高：  
ま、まだ射精する……うう！！

……む、無理……  
こんなの……もう飲めな……

……う……うおえ……ぐ……

……うっ！う？……うぶっ  
……おえええええええ！！

男の亀頭の先から吐き気のする異臭を放つ生暖かい体液が次々と明子の口の中で放出され、明子の口腔内はヨダレと精液が入り混じる。

口の中でドンドン溜まっていく男の精液は行き場をなくすと、明子の口のためとから溢れだした。

それでも1度は何とか飲み込んだが、明子の理性はその液体の2度目の体内侵入を拒否し、脳から胃へ命令を送り、1度目の精液すら体外に出させようとする。

精液の匂いを嗅いだ瞬間、本能的に呼吸を止めていた明子だったが、限界を感じ、鼻から呼吸をした瞬間に男の精液の匂いが通り抜けると、明子は我慢できずに口の中の精液を吐きだした。

おえええええ……っ

かはっ、カハッ：  
はあ、はあ、

イチモツから口を離した明子は咳き込みながら、精液の匂いをさけるため、無意識に口だけで呼吸して酸素をむさぼる。

これで開放される……

という安堵感が湧きつつあった明子だったが、予想してなかった言葉を聞くことになる。

ハアハア：ち、チンポが：  
ぜ、全然収まらない

…も、もう出て行ってください  
く、口でしたら：出て：

セックスさせろ

い、いや……嫌っっ…



い、嫌あああーっ!!!!

おっ!おお!...うう!

ああ!は、離してえ!  
ぬ、抜いてください!  
や、やめっ:ああ!

っ、っいに!憧れの女を!  
明子さんをレイプっ!  
塔矢明子をレイプううッ!

男の言葉に戦慄した明子は逃げ出そうとしたが、男は寸手の所で明子の足首を捕まえると転んだ明子に向かって覆いかぶさった。

乱暴に服を破り取りブラをずり下げると理想的な大きさと形、そしてピンク色の乳首が露わになる。

必死で抵抗する明子を楽しみながら、下着をフトモモの辺りまでずり上げると、露出された明子の秘所に龟头をあてがい、まんぐり気味の体勢でヌップリとねじ込んだ。

明子と繋がった事を証明するその温もりに、男は喜びに打ち震え、変態的な咆哮をあげながら、ガンガンに腰を振って明子を犯し始めた。

あああああ！イイっ！  
し、しし、締まるうう！  
締め付けてくるうう！！  
完璧な身体だ！最高だよ！

あうっ…ひいっ！

畜生お：塔矢名人と  
どれくらいなのペースで  
エツチしてるんだ！？

ああ、もう嫌ああ！  
も、もうやめてえ！

吸い付くように息子を締めあげてくる明子の膣内。

清楚な女はこうでなくてはという理想を次々と満たしてくれる  
明子へのレイプは男の脳汁を溢れ出させる。

は、早く正直に言えっ！  
中出しされたくないだろ！  
うっ！うっ！

：幼、幼稚園、息子、位、から、う、ず、ず、と、

：え、まさか！？

：し、してません

……ハアあああああっ！？  
ば、馬鹿じゃないのかっ！？！！！！？？  
塔矢アキラは16歳だろ！10年近くレスだと！？  
あ、あの野郎お、もしかしてインポかよ……  
俺はこうやってレイプできない人生だったのに  
この女と一生セックスできないぜ！ふざけやがって！  
世の中不公平すぎるぜ！

予想外の明子の返答に男は衝撃を受ける。

が、それと同時に、  
このセックス慣れしていないはずの明子を俺のチンポでイカせまくりたい、  
という思考がふつつつと湧き始めた。

うっ！うっ！うっ！うっ！  
せ、精液を私の顔に  
つけて汚して下さい  
っ！

…そ、そんな事…

ちや、ちやんと言えないなら、  
おほお！ハアハア：うう！  
出そう…もう…精液でちやう…

あっ！ま、待って！  
せ、精液を私の顔に  
かけて下さいっ！

汚してくださいって  
言うんだよおお！  
ああ！…もう…うっ…

駄目え！お願いします！  
私の顔に精液かけて  
よ、汚してください！

腰の動きが早くなり、息を荒げる男。

男が射精寸前なのが容易にわかると、  
中に出されることだけは絶対に避けたい明子は  
焦って男の言う通りに顔射という屈辱的な要求をした。

ハアツッ！ハアツッ！  
か、顔をこっちに向けろ！

うう……う……

明子の膈からヌブツと音を立て引きぬいた瞬間に射精しそうになったが、寸での所で肉棒の根本をギュツとおさえ、男は急いで明子の顔へその発射寸前の艦砲を向けた。ある意味セックスするよりも成し遂げたかった、明子への顔射。何度も何度も印刷した明子の顔にぶちまけてきたその白濁が、明子の顔を汚すために放たれる瞬間がっいに訪れた。



おっぱい...!!

...

あ：ああ：本物の：  
あの明子さん顔を：汚してる！

ま、まだ出る！  
ううううう！

う……う……





ゼエ…ゼエ…

ハア…ハア…

…うう…ヒゲっ…

クツクツ…ね、念願の…  
塔矢明子への生顔射…!!  
ついに汚してやったぞ…!!

覆面の男に身体を蹂躪され、生暖かく異臭のする精液を顔にかけられる明子。

いつもの平和な朝に突如訪れた信じがたい恥辱と恐怖。

明子は身体を震わせ、嗚咽を漏らしながらただひたすらに耐える事しか出来ず、男がこれで満足して出て行くのをひたすらに願った。

しかし、男は…。

おホオ：これもまた絶景：！  
も、もっと腰を落とせっ：  
ハアハア：は、早くしろっ！

うっ…くっ…

なぜこんな事を思いつくのか：。

先ほどの顔に精液をかける行為と言い、  
夫も自分も当然したことも無ければ、  
考えたことすらない。  
明子にとって信じがたい男の思考。

だが、もはや抗う術の無い明子が身体を震わせながら腰を少し落とすと、  
気色の悪い男の呼気が足の付け根辺りに触れた。

男はその閉鎖空間に興奮しながら、自らの陰茎をしごき始めた。

ハアツ：ハアツ：あ、明子：  
ムチュウ：チュツチュツ：レロ：

ひっ…あ…い、嫌っ…  
な、舐めないで…あっ…

ヒヒヒっ！  
ムフう！むふう！！  
ジュルル：レロっ…レロっ

男が夢中になって舌を伸ばし明子の陰部を舐めあげると、明子の身体はビクビクと反応し、明子は思わず声を上げてしまう。行為を止める懇願の声をだす明子であったが、その反応自体が男の性欲をたまたま刺激し、男の行為はエスカレートしていった。

ヒヒツ：何だ、濡れてるぞ？  
これは俺の唾液じゃないだろ？  
か、感じてるのか？チンポ欲しいんだろ？

ち、違いますっ！

う、嘘つくなっ！明子さんのここ…  
熱くて：トロトロじゃないか！  
そうか：なら、舌を入れてやる…！！  
ハアハア！うう！むふううう！！

明子の恥部が透明の体液でヌラヌラと濡れそぼると  
男は大きな声でそれを明子に伝え、さらなる恥辱を与えジリジリ落とそうと企てる。

明子はすぐに否定したが、陰部を舐められていた時、  
まれに脚の力が抜けるような感覚に襲われていた。

火照りを帯び始めた身体と、  
昼が近づき気温が上がってきたからと理由づけ、ソレを拒否する理性と戦い。

明子の全身は困惑の中で汗でじっとり覆われて行く。

…あっ！やめっ！

あっ…あっ…

むふう！むう！  
おいっ！その声…明子さん…  
おおい、イグウ！！

ううっ！！！！

男が明子のクリトリスを舌で攻めたると、  
明子の腰回りがビクツと反応し、  
欲情を掻き立てる艶声が漏れる。  
最高に贅沢なおカズを味わいながらのオナニー。  
男は満足しながら呆気無く果てた。

ハアハア：ヒヒッ：  
も、もっと口開けろ！

あ、あふ…

はあ：明子さん：  
ホントに美人だぜ！

…  
…  
…  
…

テーブルに並べられた料理を見て、  
男はいい加減邪魔な覆面を脱いで飯に食らいついた。

自分の正体がバレても誰にも言えなくさせればいい。  
そう考えながらクチャクチャと汚い咀嚼音を出しながら満足気に何度も頷く。

ああ、俺好みの味付け：  
主婦としても完璧だ：こんな女と結婚できたら：羨ましい、羨ましい。

明子は男の素顔を見て驚愕の表情を見せたが、すぐに視線を逸らす。  
早朝いつも通り過ぎるこの男に狙われていたのかと考えると  
明子は改めて恐怖で身震いした。

夢中で食べていた男だったが、傍らで俯き加減で正座している明子を見て  
あーんして食べさせて貰うことを思いつく。  
だが、すぐにもっと魅力的な食べさせ方をしてもらうことを思いつき、  
ほくそ笑んだ。

そ、そのエロ顔を見るだけで…  
また勃起してきちゃったよ

ほら！俺の勃起チンポを  
優しく握るんだ！

…  
…  
うう

間抜けな顔をさせてるはずなのに、その美しさに思わずうっとりとする男。

明子の呼気が顔にかかる度に、  
疲労気味の愚息も自然と元気を取り戻し、ムクムクと立ち上がる。  
男は明子に、愚息を握るように要求する。

明子は割烹着越しに自分の下腹部に当たるモノを見て、  
驚愕と諦めが混ざった様な表情を見せた。

早く握れっ、ここだよ！  
ひひっ、おお！そうだよ！  
や、柔らかい手だなあ！  
そのまま：シコシコしろっ！

あ……う

ちいっ！早く動かせっ！  
ほらっ！こうだっ！  
：おほっ！おお！いいっ！  
や、優しく……そ、そうそう……

そのまま、こっち見ろ！  
ほら、言ってみろっ！

なかなか握ろうとしない明子に業を煮やした男は  
明子の手をにぎると愚息へと導き握らせ、  
強引に手淫をさせた。

明子の柔らかくしなやかな手、  
男は改めて女体の神秘を感じながら、明子にある命令を出した。



：ど、どうほ  
：召し上がっへくらはい

ハアハア：あ、  
明子さんがそんな言うなら  
しょうがないなあ



むぎうー!?  
おじっ…うぶえ

ジュルル…ムゲムゲ!  
ジユルる…ちゅぽっ

うぶ…うぶっ!おえ…

ゴクン…う、ウマっ!  
むふう!ぢゆるっレロっ…  
クチャ:クチャ:  
あ、明子さんも食えっ!

男は獲物を捉える猛獣のように明子の舌へむしゃぶりつくと  
明子の口腔を舌でペロペロに舐めまわし、  
明子が咀嚼したご飯を下品な音を立てながらすすり上げ、  
味わいながら飲み込んだ。

明子の唾液は無味無臭ながら何とも美味で  
ご飯のほんのりした甘さと相まって、  
チンコにピンピンとくる味わいだった。

一方、明子は、あまりの気色の悪さと、  
男の口臭や流し込まれる唾液に猛烈な吐き気を催していた。

ひ：へあ：ゴクッ  
やめ：んぐっ：

手で射精させるまで：  
何杯でも続けるぞ：！

早く出：は、吐いらう：  
うえ：もう、許し：ゴクッ  
う：おうえええ：

は、吐け：くっへやる：  
明子ひゃんのなら：食べるぞ：  
おお！おっ！高速手コキっ！？  
おほっ：くっ：うっ：ううっ！

男はこの行為を気に入り、  
咀嚼された口のご飯がなくなると、  
男は茶碗から次のご飯を口に含み同じ行為を繰り返した。

男の唾液がノドを通り、男の呼気が鼻からぬけるたび、  
明子に強烈な嘔吐感が襲いかかる。

明子は握らされていたピクピクと熱いほどに脈打った肉棒を強く握り直すと  
必死でシゴキあげた。

突如握られた亀頭部分に

明子の柔らかな手による絶妙な刺激が送り込まれ、

男は腰が砕けそうになる感覚を味わいながら、明子の手射精した。

くそお：出ひやっただよ：  
もつと明子ひゃんと：キスしてひやかっただのひ  
チュツ：ムチュ：フウフウ：

俺は名残惜しくも明子さんから離れると、  
残りの飯を食い始めた。

ゼエ：ゼエ：げぶっ：うおええ：

本人に取っては  
拷問とも言えるであろう変態プレイから  
開放された明子さんは畳にへたり込むと  
放心状態で呼吸をむさぼる。

俺の精液で  
明子さんの白い手と割烹着が汚されているのを見て  
ゾクゾクとした興奮を覚えながら  
俺は腹を満たして行った：

20分後、  
久々の美味しい家庭料理に3杯おかわりし大満足した俺は、  
明子さんを心からべた褒めしたが、  
伏し目がちの明子さんは  
俺と視線を合わさないようにして、  
微かに震える手で食器を片付け始めた。

そこで俺の眼に飛び込んできたのは、  
下着すらつけてない、  
文字通り、裸割烹着の状態から露わになった  
明子さんの微妙に突きだされた尻。

16歳の息子が居るとは思えない、美しい腰のくびれが  
明子さんの尻の卑猥さをさらに強調する。

その姿が、しばしの冬眠を要求していた、  
俺の悪い虫を目覚めさせるのは容易い事だった：

明子お！明子おおおっ！  
ハアツ！ハアツ！  
くううう！この尻っっ！

あぁっ！...もう...やめ！  
お、おねがい...おねがい！

お、俺もお願いしちゃう！  
ガンガンに犯させてくれっ！

男は背後から明子をテーブルへ突き飛ばすと  
さらに突き出されたその尻にますます鼻息を荒くし、  
バックから狂った怒張を明子の女へと容赦なくズツプリと突き入れた。

突然の事に声を上げ慌てる明子の両腕を背後から掴み  
手綱のように引っ張ると、  
振り返った背中と連動してそのエロ尻がさらにつき上がる。

男は明子の尻に向かって、そのまま乱暴に腰を振り始めた。

明子をおおバックからおおっ！  
おほおおおおおっ！！  
レ、レイプ最高おおうおお！

ひい！…ひあああ！あぐっ！

くううう！たまんねえ！  
うっ！うっ！このっ！  
尻の音っ！！聞こえるか？  
犬みたいに犯されてるんだぞ！

おう！おおう！！  
ホラっ：奥までっ！！  
突きまくって：やる！！

あっ！…ああ！…あんっ！

男が腰を突き上げる度にガクガクと揺さぶられる明子の上半身。

パンツパンツと

明子の尻と男の下腹部が打ち鳴らす音にまさり、  
結合部からヌチュヌチュと淫靡な音が  
塔矢家の厳かな和室に鳴り響く。

男のイチモツが明子の最も深い部分まで届くこの体位は、  
明子に明らかに違う反応をもたらせていった。

な、何だ今の声は!?!ヒヒッ!  
いいぞお!感じてるんだな?

ち、違っ…ああんっ!

ば、バックが好きなのかつ!?!  
ホラっ!おお!ここかつ!?!  
すい、素直になれっ!明子っ!

ひいっ!?!…ひあ!  
やっ…ああ!ハアハア…

男の亀頭が明子の子宮口へキスをする度、  
明子の体に抗い難い快樂の波が発生する。

下腹部から感じるジンジンとした、  
男に激しく突かれる度に感じる頭へつき上がって来るかのような痺れる快流…  
火照ってくる肉体と全身を包む恍惚感…  
忘我の刺激に理性は消えかけ、無意識に甘い響きの声がでてしまう明子。



も、もっと聞かせろ！うっ！！  
もっと鳴け！あああ！！  
明子お！明子おお！！

あっ！あっ！！  
あひあ：ひあっ！！

ヒイ！あひい！！  
ダメ！ええひい！！  
だ、奥に：当たっ！！  
お、奥に：ああん！！  
ああ！！

初めての経験するボルチオの快楽に、  
口のためにはヨダレが垂れ落ち、  
艶声が止まらない明子。



助けて…ああ! ああんっ…  
アナタ…んっんっ… あん!

な、何がタスケテだ!  
感じまくってるじゃないか!  
ヒヒツ! ハアハア!

…あひっ! ああ!

あ、あんな困基しか脳のない  
インポ野郎の事なんか  
忘れさせてやるぞ!!  
うっ! うう!! こ、こっち来い!

男は明子を落とすこのチャンスに、より屈辱的な体位を考え、明子の体を引っ張って移動させた。

あひ！あああ！あっ！  
ダメ！だめええええ！

もうっ声っ！あひいっあっ！  
あああっ！奥にっ！あっ！  
ああん！あんっ！！！！！

男のっ！チンポがっ！欲しかったんだろっ！  
ハアッ！ハアッ！ムンっ！  
ど、どうだっ！こ、このメス豚がっ！

最高う！最高すぎるっ！  
もうレイプやめられねえっ！  
おほおうっ！うう！

明子を障子に手をつかせて、バックから襲いかかる男。

憧れの女が、あの清楚な人妻がレイプされ、その男の…  
オレのチンポでよがりまくってるっ！

肉体の快楽よりも精神的な快楽が男をより狂気へかり立てた。



ひっいいい！ひっいいい！！  
あああ！！  
あっああ！あんっ！！

あああああ！！！！

うう！！！！い、イグウ！出るぞ！！  
俺の精子を：うう！！  
し、子宮に注ぎ込んでやる！！

明子おおお！！  
明子おおお！！  
明子おおお！！！！

明子の秘液で濡れた肉棒は、滑らかにその膈壁に刺激をあたえつつ、  
明子の子宮口への追撃を容易にした。  
崩れそうになる明子の腰をがっしり掴み、容赦なく突き上げる男。

二人の全身に巡る抗えない快楽と興奮：  
男が狂った声で明子への膈内射精を宣言する。

明子が初めて経験するエクスタシーはあれほど感じていた妊娠の恐怖すら、  
もうどうでも良くなるほど、その理性を崩壊に追い込んでいた。



数回目の射精とは思えない、  
大量に吐き出された男の濃い精子が明子の子宮口から子宮内部へ送り込まれる。  
明子の微かな理性は中へ射精されたことを感じ取ったが、  
波のように押し寄せる快樂の余韻で動くことが出来なかった。。

満たされた子宮から溢れでた精液は行き場所をさがし  
二人の結合部からドロツと垂れ落ちると、鮮やかな緑色の畳を汚す。

男は全てを明子の中で出し尽くすと満足気な表情を浮かべて  
明子の尻を押しつけるようにして腕を離すと、  
明子は糸の切れた人情のように、その場に崩れ落ちた。。

はあ…はあ…

ゼエ：ゼエ：  
バツクからレイプされて、  
イツちやうなんて：  
幻滅したなあ：ヒヒッ

はあ…はあ…

やっぱり俺の  
チンポ欲しかったんですね、  
それなら今日は泊まりで：  
あれ、聞こえてないのか？  
：まあ、いいか、くっく

呼吸を乱し、定まらない視点で天井を見つめ、ビクッビクッと痙攣する明子。  
痙攣する度、その股間からはドロドロと男の精液が垂れ落ち  
畳に染みをつくっていった。

男が明子へ侮辱的な声をかけても反応はなかったが、  
男はこの無反応こそ愉快で仕方なかった。

**あの清楚な人妻：塔矢明子をレイプしてイカせたぞ…。**

男の中は充実感と自信に満ち溢れる。  
それに、この女へはまだまだやりたいことがある。


じっくりとフェラ顔を見たいし、おっぱいも母乳が出るほどに攻めたい。

あ、パイズリなんてものありか？

あの綺麗な尻穴だって当然楽しまない。

大野千里みたいに小便を漏らさせたいな：ウンコ漏らさせたらどんな反応するんだ？  
：なんにせよ、時間はたっぷりある。

**塔矢先生、貴方の奥さんは頂きますよ…。**



ああ：明子さん：！！  
今日は出会えた！  
相変わらず美しい人だ：

俺もいつか、俺に相応しい  
こんな女と結婚するのが夢だ：  
それまでは：クツクツ：！！



明子さん：ハアハア……！  
き、今日もオカズ用に  
撮らせてもらいますよ！

よし、それじゃ早速  
スマホのカメラアプリで……

なっ!?!  
ま、マズイ!

こっちを見られた：  
撮ってるのを気づかれたか!?!



だ、大丈夫だ…

…あ、焦ったぜ…  
もつと気をつけないとな…




全く、今日は焦ったが：  
ハアハア：

うっ！うう！お陰で  
い、イイのが撮れた：

…あ、明子さん！  
うっ…ハアハア！

そ、そんな、うう！  
見つめられたらっ！




あ、明子さんの、唇をっ  
俺の：チンポツ 我慢汁でッ

おふう！いふう！いふう！  
汚してやる…汚してやるう！



うっ...

おっ！



くふうふう！あ、明子さんっ  
あふうふう！あふうふうふうふう！！

ハアハア：ふうふう  
き、今日もたっぷり、  
絞り取られましたよ…

後日の早朝、  
俺は門戸からでてきた  
明子さんの姿を発見すると、  
心のなかでガッツポーズをしながら  
スマホを取り出した。


あのこっちを見た明子さんの顔は  
最高のオカズだった：  
明子さんはセツクスの時とか  
どんな顔をするんだろうか：  
畜生：見てみたいぜ：  
淫らに喘ぐ声も聞いてみたい：

この清楚な人妻を！  
喘がせて！イカせまくって！汚して！  
滅茶苦茶にぶっ壊してやりたい：！！

俺が塔矢先生だったら：はあ：

ゆっくり明子さんに近づきながら  
バレないよう慎重に  
スマホのカメラレンズを明子さんに向け、  
顔に焦点を合わせる

そして、明子さんの目の前を  
通り過ぎる時に、  
その出来事は起きた：

A woman with dark hair, wearing a pink long-sleeved shirt, is shown from the chest up. She has a distressed expression with her mouth wide open as if shouting or crying. Her hands are visible, gripping a metal zipper pull on a dark-colored garment. The background is a plain, light-colored wall.

も、もう少し下だ！  
ちやんと合わせただはず！  
撮れてるはずだっ！

頼む！頼む！！  
あ、明子さんのパンツ！





クソッ！…慌てなければっ！  
絶対撮れてたのにつっ！！

明子さん：明子さんの太もも：  
ぱんツ！確かに見たのにつ！

パンツが何色だったかすら  
…あやふやにしか思い出せないっ！  
…く、クソおとおおッ！



駄目だ、集中できない、  
盤面はポロポロだ：

くっ、  
こんな低段の女流棋士に：

くそっ、この女：  
大野とか言ったか：  
：

：デカイ胸しやがって  
畜生：ムラムラする



ゴホン

ハッ!? ししまった!  
女の胸をずっと見てるのがバレた...



冷や汗が止まらない：  
畜生、睨みやがって：

：しかし、よく見たらこの女、  
結構美人だな：  
：決めたまぞ：

今日はお前を汚してやる：  
なんとか顔を撮るんだ：



俺はどうにか粘り、休憩後の対局が始まる前、正面からこの女の顔をカメラに収める事に成功した

だいが加減投了するか：内心怒ってるだろうな！  
だが今日はお前を：俺の精液で：くううう！





あ、ありません。  
ありがとうございました。

…ありがとうございます。



ヒヒっ！や、やっちまった！  
ハアハア：あの大野とかいう女！  
なんて下品なパンツ履いてやがる！  
うう：この尻：た、たまらんっ！

さっそく印刷だ！  
尻にぶっかけてやる！  
よ、汚してやるぞ！

女流棋士二段  
大野千里

あっ！あふうう！！  
ううっ！お、大野っ！

くっくっくっ興奮する！  
まさかっ、うっ！うっ！  
こゝこんな収穫があるとは！



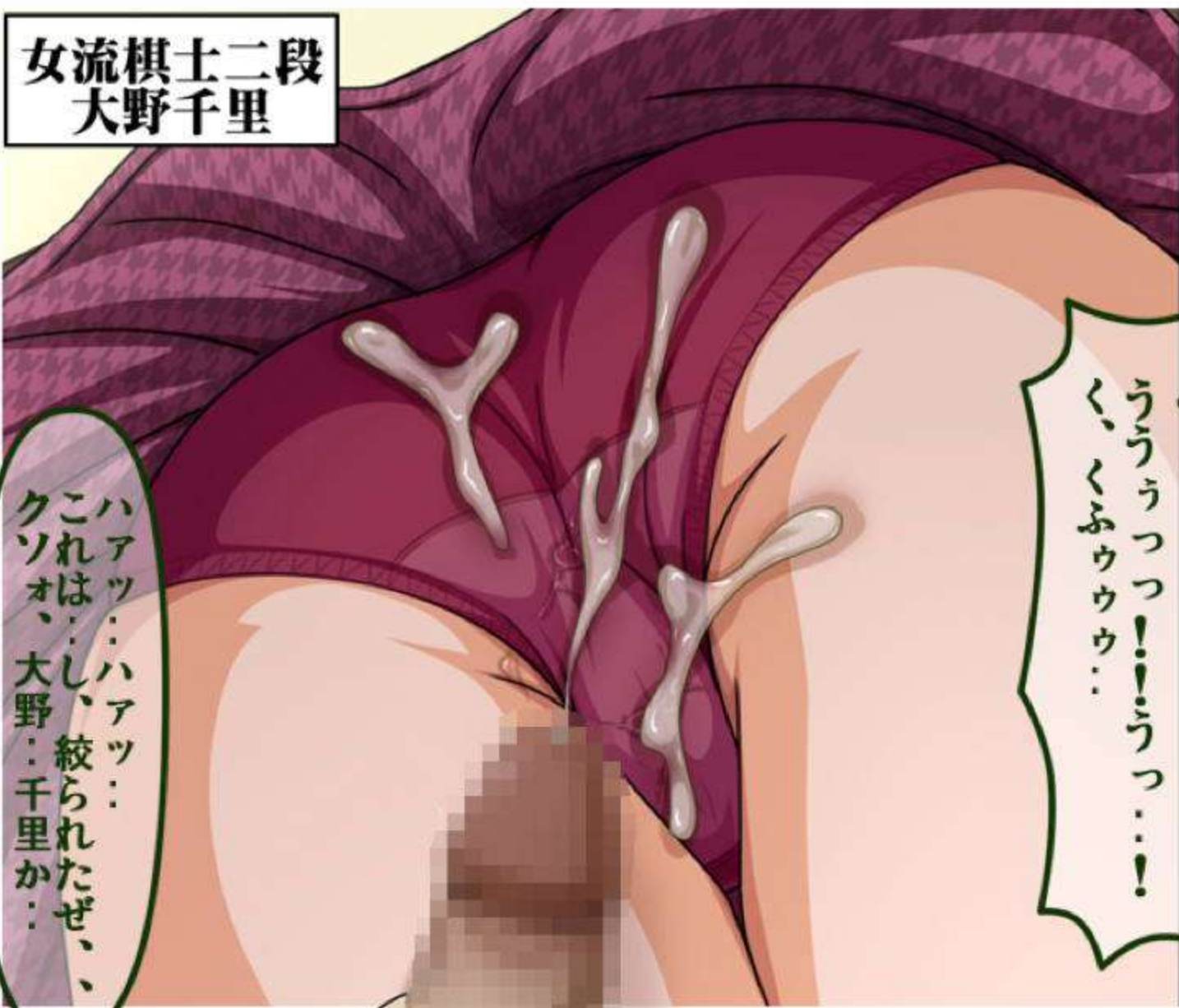
女流棋士二段  
大野千里

おほほおほ!!!  
いい、イクイクっっ!!!  
ち、千里!千里おほおほ!!!

まず、マボコにチッコをツ!  
ズボンもおっ!おほっ!  
尻穴もだ!おっ!おほっ!  
どうだ!おっ!おほっ!  
低段のメス豚がっ!



女流棋士二段  
大野千里



ハアツ…ハアツ…  
これは…し、絞られたぜ、  
クソオ、大野：千里か：

うつつつ…!!  
うつつつ…!!  
うつつつ…!!  
うつつつ…!!  
く、くふウウウ…



あのオナニーの興奮に取り憑かれた俺は、  
何とか塔矢明子の下着を盗撮する為  
朝から時間の許す限り塔矢家の前をうろついていたが  
明子さんの姿を見つuckerける事は出来なかつた

くそっ！また塔矢先生と一緒に行動してるのか：  
そうなるとしばらくはここに帰ってこないぞ：  
そうじゃなくても出会えるか解らないのに：畜生っ！！

：塔矢明子へのねじ曲がる劣情が、  
大野千里のスカート内を盗撮した画像へと  
向けられる日々が続いた

新たな興奮を知ってしまったおかげで  
明子さんの顔写真を使ったオナニーに満足感が得られない：  
あの興奮をまた味わいたい、ドピュドピュ汚してやりたい  
だが、女なら誰でもいいってわけじゃない、  
その辺の知らない女などまるで興味が沸かないのだ  
やっぱりターゲツトは囲碁関係者の女がいい：  
そうなると女流棋士：まずは、やはりあの女だ：

そして俺は、  
大野千里の棋戦スヶジュール等を調べ始めた

居たぞっ居たっ：  
またスカートの中を撮ってやる…！  
くっくっく

ハア：ハア：ち、千里：  
お前の尻で抜いてやるからな…



だがその日、大野達の対局が早々に終了し、知り合いの記者に捕まっていた俺も慌てて大野の後を追ったが結局、大野の姿を見失ってしまった。

くそっ：畜生！！  
今日のために：ヌくの我慢して我慢してちくしよ！  
あ馬鹿野郎が！！  
進藤何とかやら塔矢のガキなんかの下らない話しやがって！

大野：大野で抜きたいのに：  
大野とやりたいのに：  
大野のマンコに突っ込んでメチャクチャに犯してやりたい：  
大野千里をレイプしたい：  
レイプ：

7月某日、午後5時頃

俺は棋院で調べた  
大野千里の自宅マンションのドアに立っていた

震える手でベルを鳴らし  
顔が見えないように帽子のツバで隠す

「はい？」

「日本棋院さんから郵便です。」

「は、ハンコお願いします。」

「はい、ちよつとお待ちください。」

大野の声を聞いた瞬間に

下腹部に延々とジエツトコースターで落ちてるような

キュンキュンとした擬似射精感が襲いかかる

「ハアツ、ハアツ、早く出てこい！！！」

蒸し暑い夏の夕暮れ、初めて被る覆面が本気で煩わしい、

脱ぎたい衝動に駆られた時だった

カチャカチャ：ガチャッ

：素早く：廊下へ押し倒し：ドアを閉める：

「ご苦労さまで：えっ！？な、ムグウウウ！？」

ドサツ：バタンっ！：カチャ：



んんっ!!  
んんっ!!  
んんっ!!

ハア!ハア!  
クソっ!!あ、暴れるなっ

おっ、おっおお!  
おっおっおっおっ!  
こんな揺れるのか...ハアハア...



あ、暴れるなるって  
言ってるだろって！！

くそ、思わず腹殴っちゃった！  
何処だ！？…うっ！  
畜生！上手く入らん、

ぐぶぶっ！？  
かっ…がはっ…

うう…う…

うっ！くっ！  
擦ってるだけで爆発しちゃまう、  
焦るな…くそっ、クソツツ！



んぐうーっうーっ  
んーっうーっ  
!!!

お、おほっ！お、おお！  
アア：入った……！！  
っハ、っいに……ど、童貞卒業……

んんーっ  
んんーっ  
んんーっ  
!!!

こ、コレが……女の……うう！  
お、大野千里の……っ、くっ！  
ま、マンコ……の……な……



ウウツ...うっつ!

おっ!...うっ!  
おっ!  
おっ!  
ハア  
ハア!

...?  
...?



い、入れただけで：  
出っただけで：  
フウ！フウ！フウ！

ハアツツハアツツ：  
いっつそ、その顔っ：  
うう！：たまんねえ！！  
う、動くぞっ！  
レイプしまくってやる！

んっ：うっ：  
んっ：うっ：  
んっ：うっ：  
んっ：うっ！



んーっっ……  
ンゲッ！……っ！

ほらっ……ど、どうだ？  
レイプされてるんだぞ！  
ハアッ……ハアッ……

ひぐう……ううう……

くうっ……大野のマンコが絡みつく……  
チンポが熱い……痺れて……溶けそうだ……  
畜生、上手く腰が……もどかしいっ……！  
ムンっ……ファンツッ！くふうううう……  
大野……気持ちいいっ……気持ちいいよう……！





おほっ!!!  
おっ!おっ!  
で、射精るっ!!

うう!うっ!  
お、大野:千里おっ!!

はあ...はあ...

ハアハアハア...  
小便漏らしやがって...  
このメス豚が!!!  
フンツムンっ!!!

お!おっ!また射精るうっ!  
中出しっっ!孕ませるぞっ!  
イク、い、くううう!!!





チュプっ  
チュッ  
チュッ  
チュパっ

むふう！  
むふううん…

はあ…はあ…

は、反則だろ！  
このおっぱいは…！！

ジュルるっ！！  
ジュパ！！

ハアハア：  
ち：千里お：  
妊娠させてやる：

...


うう！  
うう！  
うう！  
うう！

...



いたぞ、居たっ!!!

塔矢先生は中国の棋戦、  
息子のアキラも地方に出て  
今日は帰ってこないはず！



長期戦も覚悟したが、  
まさか夏の間にも  
このチャンスが訪れるとは…

焦るな、最初が肝心だ！  
最初をしくじったら終わる…  
慎重に行動するんだ！



わ、ワキい！  
明子さんのワキマンコお！  
んむうレロっ：レロお！

きゃあああっー！！

や、やめっ：あ  
や、やめっ：あ  
だ、だめっ：あ  
誰かっ！！！！



なっ…

それにこれだけ家が広げりや、  
外の誰にも聞こえねえ…  
逆に嫌ってほど声出させてやるよ…

だ、誰も居ないんだろ？  
知ってるんだぞ…ヒビ

あ…あ…い、嫌…

お、おっホオ!  
おっホオ!  
おっホオ!  
おっホオ!  
おっホオ!  
おっホオ!  
おっホオ!  
おっホオ!  
おっホオ!  
おっホオ!

あ、熱い!  
あ、熱い!  
あ、熱い!  
あ、熱い!  
あ、熱い!  
あ、熱い!  
あ、熱い!  
あ、熱い!  
あ、熱い!  
あ、熱い!

明子さんのフトモモ:  
明子さんのフトモモ:  
明子さんのフトモモ:  
明子さんのフトモモ:  
明子さんのフトモモ:  
明子さんのフトモモ:  
明子さんのフトモモ:  
明子さんのフトモモ:  
明子さんのフトモモ:  
明子さんのフトモモ!

ハアハア!  
ハアハア!  
ハアハア!  
ハアハア!  
ハアハア!  
ハアハア!  
ハアハア!  
ハアハア!  
ハアハア!  
ハアハア!

ううううううううっ！！

…あ…あ

…う、嘘っ…これ…あ

おふう：おふううっ！！  
ハアハア：あ、明子さん…  
で、出ちやっした…





ふうふう！  
口でしゃぶってもう1回  
ドピュドピュ射精させろっ！  
そしたら、  
此処から出て行ってやる！

こんなのを：  
く、口でなんて…

い、嫌：出来ない…  
ど、どうしたら…  
ど、どうしたら…

あぁあぁ！何してるんだよっ！  
は、早く口に咥えろっ！  
手で優しく握ってシコシコさせて  
口でイヤラシく  
チュパチュパしろおおお！！

...

ハアツ！ハアツ！  
な、なんて眺めて眺めた！！  
なんて眺めたっ！！

明子さん！！フウツ！フツ！  
明子さんの！！イヤラシイ尻が！  
あ、あああ！  
ハアハア：目の前につっ！

ああ、それにこの柔らかい尻！  
：夢の様だ、あ、明子さん！

あ、頭がおかしくな！  
：うう！？くっ！出！  
が、我慢しろ！くっ！

あ  
あ

ひ  
い  
っ  
っ  
!?  
?

お：早くしろ  
お：犯すぞ



んっ、んんっ…チュパ

おほお!! おっ!! おおっ!!  
あ、明子さんっ!!  
く、啜えてるのか!!?  
俺のチンポをつっ!!?

んっ…んっ…

あ、明子さんの…く、口い!  
おほお、あ、暖かい…いいっ!

お、俺も…ハアハア!  
お返し…うう!  
し、しないとな!

あ、明子さんの  
生パンツの匂いの  
ブファンユ：むふうい  
うゆうううう！！！！

んぐう！？

すうはー…すう…ぶぶぶうー！  
むふう！レレレおレロっ！  
むちゅ：レレおレロっ！

んっ！…んんっ！？

プフう……ふうう……ふうう……  
み、見てやる……見てやるぞ……

これを……うう……!!  
め、めめめ、めくれれば……  
明子さんのアマンコが……ゴクッ  
ハアツ……ハアツ……

ハアツ！ハアツ！ハアツ！  
こ、コレがつ：明子さんの：ゴクツ！  
くうう！美人は肛門も綺麗なのかよ！

…だけど、清楚な人妻も  
ここの毛は随分下品なんだな…！！  
処理してないのか：ヒヒっ…！！





う……うう……



陰毛も……ち、ちゃんとしゅ、淑女の嗜みだろうが！

くっくっく！あ、明子さん！人に見せないからって、ううう！！ええ？何だよこれは？ヒヒッ！！

も、もっと口をすぼめて、  
手をシコシコさせろ！

ムグッ！ジュプ  
ムプッ！ジュプ  
ムプッ！ジュプ  
ムプッ！ジュプ

あー：いいっ：ハアハア：  
明子のマンコ：明子のフェラ：  
たまらん：たまらん：



うう！うっ！  
憧れの人妻が：  
あの年収1億超えの  
塔矢行洋の妻：明子が：

たかが年収500万程度の  
低段棋士の俺にフェラチオを：  
俺のチンポをしゃぶってる：

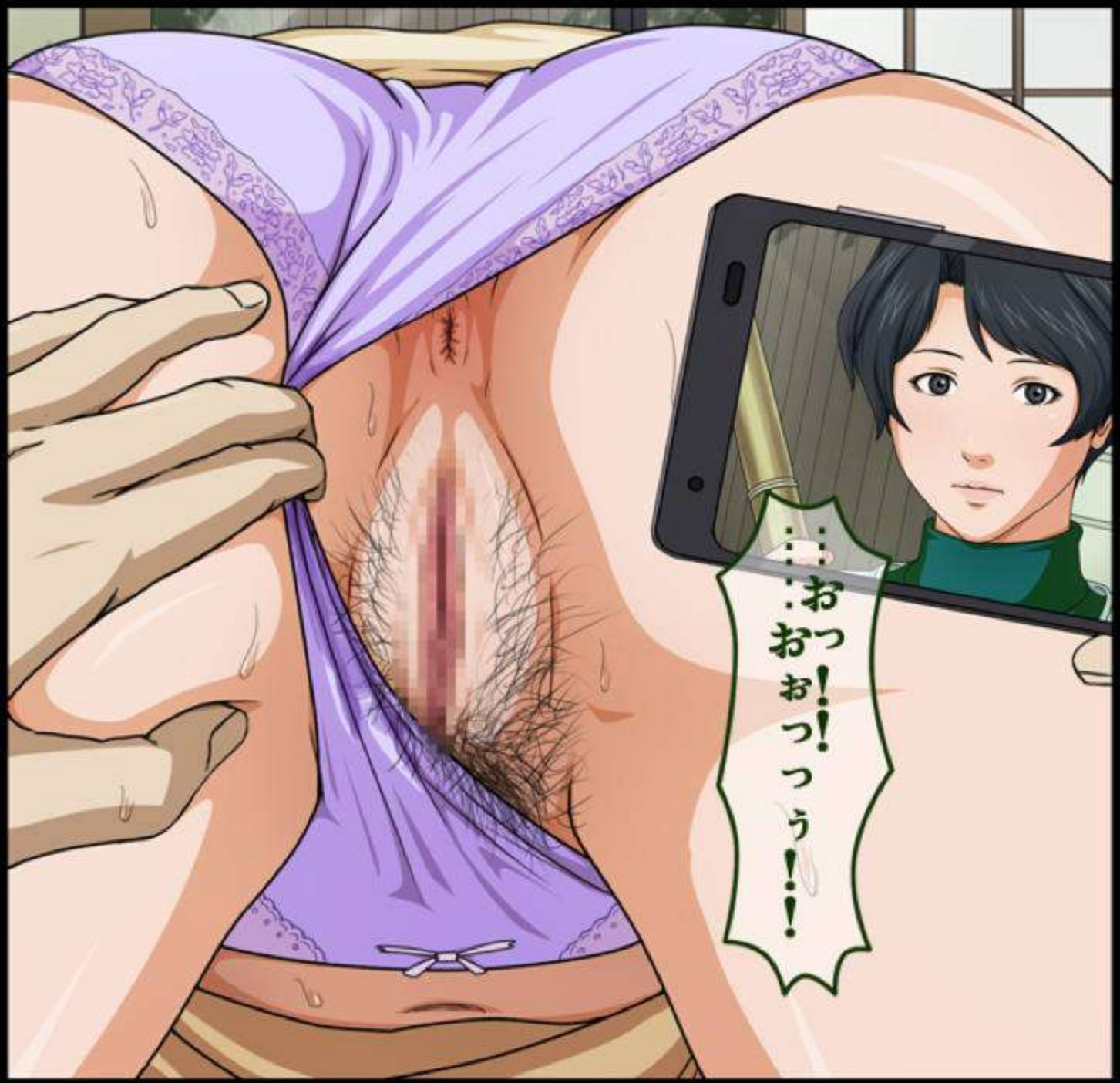


んんっ！うんー！んー！！

で、射精るう！うっ！  
絶対に口を離すな！うっ！  
俺の精液を！全部飲めっ！



ハアハア……！！  
明子さん……うっ！  
明子さん……明子さん  
あき……うう……明子……！！



飲み：俺の精液：飲み！  
はあああ：最高：  
ま、まだ射精るうううう！！

…む、無理：  
こんなの：もう飲めな…

…う…うおえ…ぐ…

…うっ！う…うおっ  
…おえええええええ！！

かはっ、カハッ：  
はあ、はあ、

おえええええ…っっ



セックスさせろ

い、いや……嫌っっ……

…も、もう出て行ってください  
く、口で、したら…出て…

ハアハア：ち、チンポが：  
ぜ、全然収まらない



い、嫌あああーっ!!!

おっ!おお!うう!

あ、あ、あ、は、離してえ!  
ぬ、抜いてください!  
や、やめっ:ああ!

つ、ついに!憧れの女を!  
明子さんをレイプっ!  
塔矢明子をレイプううッ!

あああああ！イイっ！  
し、しし、締まるうう！  
締め付けてくるうう！！  
完璧な身体だ！最高だよ！

あうっ…ひいっ！

畜生お：塔矢名人と  
どれくらいのパースで  
エツチしてるんだ！？

ああ、もう嫌ああ！  
も、もうやめてえ！

は、早く正直に言えっ!  
中出しされたくないだろ!  
うっ! うっ!

：む、息子がう：  
：幼稚園位から、  
：あう、ずつと：

：え、まさか!?

：し、してません

……ハアああああっ!?  
ば、馬鹿じゃないのかっ!?  
塔矢アキラは16歳だろ!?!?!?  
あ、あの野郎お、もしかしてインポかよ…?  
俺はこうやってレイプできない人生だっのに  
この女と一生セックスできないふざけやがって…  
：世の中不公平すぎるぜ！

うっ！うっ！うっ！  
せ、精液を私の顔に  
つけて汚して下さい

…そ、そんな事…

ちや、ちやんと言えないなら、  
おほお！ハアハア：うう！  
出そう：もう：精液でちやう：

あっ！ま、待って！  
せ、精液を私の顔に  
かけて下さいっ！

汚してくださいって  
言うんだよおお！  
ああ！…もう…うっ…

駄目え！お願いします！  
私の顔に精液かけて  
よ汚してください！





ハアツッ!ハアツッ!  
か顔をこっちに向けろ!

...



あ：ああ：本物の：  
あの明子さん顔を：汚してる！

ま、まだ出る！  
ううううう！

う……う……





ゼエ…ゼエ…

…うう…ヒゲっ…

ハア…ハア…

クツクツ…ね、念願の…  
塔矢明子への生顔射…!!  
ついに汚してやったぞ…!!

腹が空いてきた俺は明子さんに飯を作ることを要求した。

当然、普通に作らせる訳がない。裸にエプロン：と言いたいところだったが、明子さんと言えはやはり割烹着姿！裸割烹着という少々マニアックな姿を俺に披露することになった。

ヒヒッ：いい、いいじゃないか！

背後からみると背中の大部分は隠れているが、下半身はほぼ丸出しの状態。清楚な人妻のエロチックなその姿は実に卑猥であった。

包丁を握らせてるので、妙な事を考えたら動画をネットにばらまくと脅してある。恥辱に耐える様な表情ながらも、手際よく料理をすすめる明子さん。台所に広がる料理の匂いと、そのエロエロな姿を見ただけでヨダレが出てくる：

うう：明子さん：も、もう我慢出来ない：！！

「えっ！？ちよ：ああ！：や、やめてください！：」

俺が背後から明子さんの下着に手をかけ、少しずつずりおろすと、明子さんは困惑の声をあげる。その反応がますます俺の欲情を刺激していく。

俺はかまわず片足に引っ掛ける様に下着をぬがすと、特等席から明子さんをつまみ食いする事にした。



うっ…くっ…

おホオ：これもまた絶景…！  
も、もっと腰を落とせっ…！  
ハアハア：は、早くしろっ！

なひっ…あ…いい、嫌っ…  
な、舐めないで…あっ…

ムハアツ：ハアツ：あ、明子：  
ムチュウ：チュウチュウ：レロ…

ヒヒヒっ！  
ムフウ！むふう！！  
ジュルル：レロっ…レロっ

ち、違いますっ！

ヒヒツ：何だ、濡れてるぞ？  
これは俺の唾液じゃないだろ？  
か、感じてるのか？チンポ欲しいんだろ？

う、嘘つくなっ！明子さんのここ…  
熱くて：トロトロじゃないか！  
そうか：なら、舌を入れてやる…！！  
ハアハア！うう！むふううう！！



あっ…あっ…

…あっ！やめっ…

ううう！！！！

むふう！むう！  
おいっ！その声…明子さん…  
おお！い、イグウ！！



はあゝ：明子さん：  
ホントに美人だぜ！

ハアハア：ビビッ：  
も、もっど口開けろ！

あ、あふ...

...

そ、そのエロ顔を見てるだけで…  
また勃起してきちゃったよ

ほら！俺の勃起チンポを  
優しく握るんだ！

…うう





早く握れっ、ここだよ！  
ひひっ！おお！そうだよ！  
や、柔らかい手だなあ！  
そのまま：シヨシヨしろっ！

…あ…う

ちいっ！早く動かせっ！  
ほらっ！こうだっ！  
：おほっ！おお！いいっ！  
や、優しく…そ、そうそう…

そのまま、こっち見ろ！  
ほら、言ってみろっ！

ど、どうほ…  
召し上がっへくらはい…

ハアハア：あ、  
明子さんがそんな  
しようにないなあ：

むぶぶうー!?  
おごっつ...うぶえ

ジュルル...ムグムグ!  
ぢゅむる...ぢゅぱっ  
ジュルるるっ

うう...うぶっ!おえ...

ゴクン...う、ウマっ!  
むふう!ぢゆるっレロっ...  
クチャ:クチャ:  
あ、明子さんも食べっ!



ひめ：へあ：ゴクッ  
やめ：んぐっ：

手で射精させるまで：  
何杯でも続けるぞ：！

早く出：は、吐いらう：  
うえ：もう、許し：ゴクッ  
う：おうえええ：

は、吐け：くっへやる：  
明子ひやんのなら：食えるぞ：  
おお！おっ！高速手コキっ！？  
おほっ：くっ：うっ：ううっ！

あぁっ!!...もう...やめ!!  
お、おねがい!!...おねがい!!

お、俺もお願いしちゃう!!  
ガンクから  
ガンガンに犯させてくれ!!

明子お!!明子おおお!!  
ハアツ!!ハアツ!!  
くううう!!この尻っ!!

明子をおおバックからおおっレイプ!!  
おほおおおおおおっ!!  
レ、レイプ最高おおうおお!

ひい!...ひああ!あぐっ!

くううう!たまんねえ!  
うっ!うっ!このっ!  
尻の音っ!!聞こえるか?  
犬みたいに犯されてるんだぞ!

おう!おおう!!  
ホラっ!奥までっ!  
突きまくって!やる!!

あっ!...ああ!...あんっ!

ば、バックが好きなのかつ!?  
ホラっ! おお! ここかつ!?  
すい加減にっ! うっ!  
すい素直になれっ! 明子っ!

やひいっ!?!?!?!  
ああ!?!?!?!  
ハアハア...

ち、違っ... あああんっ!

な、何だ今の声は!?!?! ヒヒッ!  
いいぞお! 感じてるんだな?

も、もつと聞かせろ！うっ！  
もつと鳴け！あああ！  
明子お！明子おお！！

あっ！あっ！  
あひあ：ひあっ！

あおだヒ  
あ、奥ダメ！あ  
あ！にいえひ  
あ：いええひ  
あ：当ツ！！  
あんたっ！！  
あ：あんたっ！！



助けて…ああ! ああんっ…  
アナタ…んっんっ… あん!

…あひっ! ああ!

な、何がタスケテだ!  
感じまくってるじゃないか!  
ヒヒツ! ハアハア!

あ、あんな困碁しか脳のない  
インポ野郎の事なんか  
忘れさせてやるぞ!!  
うっ! うっ! うっ! こ、こっち来い!

あひ！あああ！あつ！  
ダメ！だめえええええ！

もうっ声っ：あひいっあつ！  
あああ！奥にっ：あつ！  
ああん！あんっ：！！！！

男のっ！チンポがっ！欲しかったんだろっ！  
ハアツ！ハアツ！ムンっ！  
ど、どうだっ！こ、このメス豚がっ！

最高う：最高すぎるっ！  
もうレイプやめられねえっ！  
おほおうっ！うう！

ひっいいい！ひっいいい！！  
あぁあぁ！！  
あっあぁ！あんっ！！

あぁあぁあぁ！！

うう！！いい、イグウ！出るぞ！！  
俺の精子を…うう！！  
し、子宮に注ぎ込んでやる！！

明子おおお！！  
明子おおお！！



ひっ……あ……あ……

おお！おおおっっ！？  
うう……うっっ！……うっっ！  
ううっっ！！

はあ……はあ……

はあ……はあ……

ゼエ……ゼエ……  
バツクからレイプされて、  
イツちやうなんて……  
幻滅したなあ……ヒヒッ

やっぱり俺の  
チンポ欲しかったんですね、  
それなら今日は泊まりですか？  
あれ、聞こえてないのか？  
……まあ、いいからいいか？

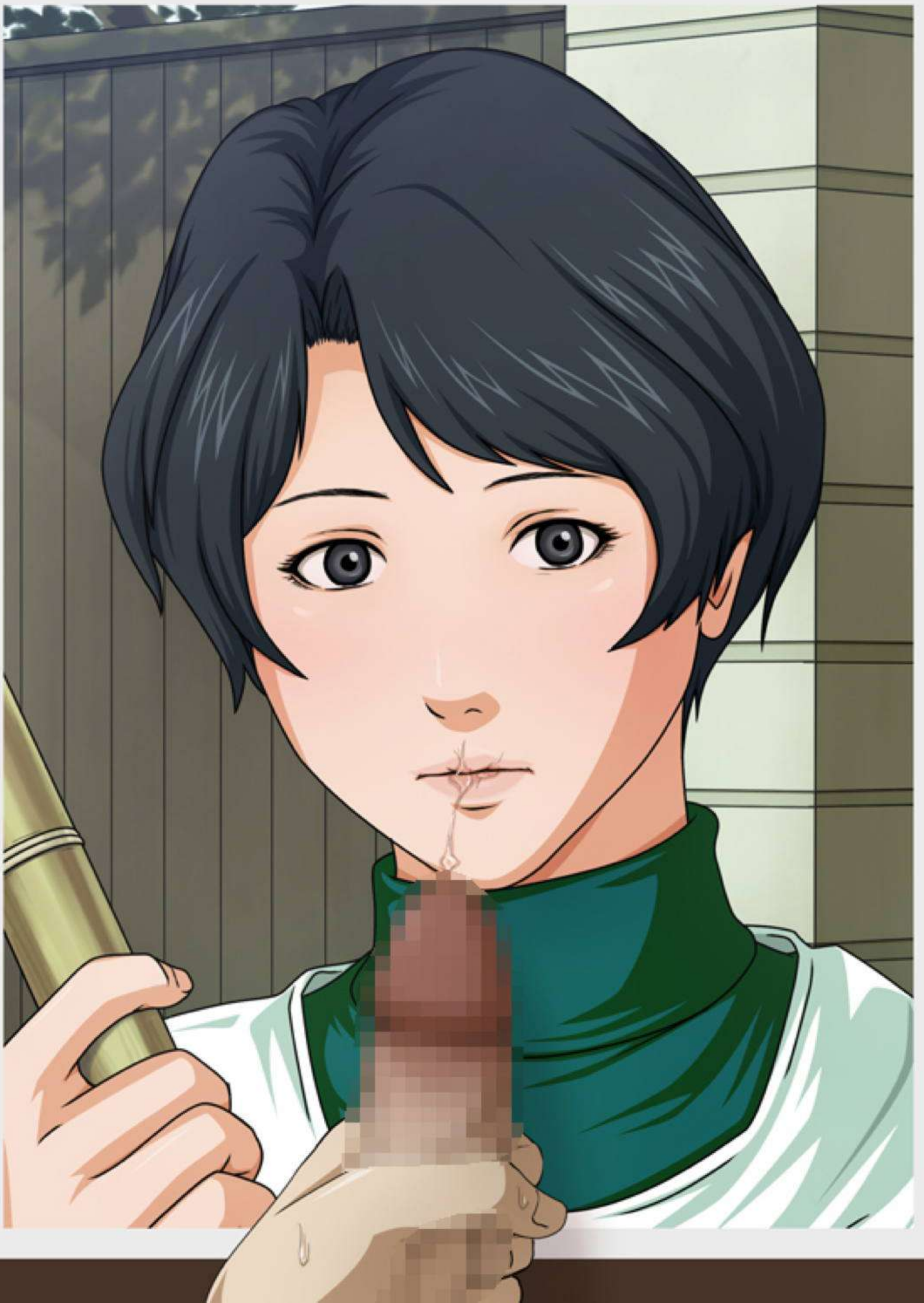








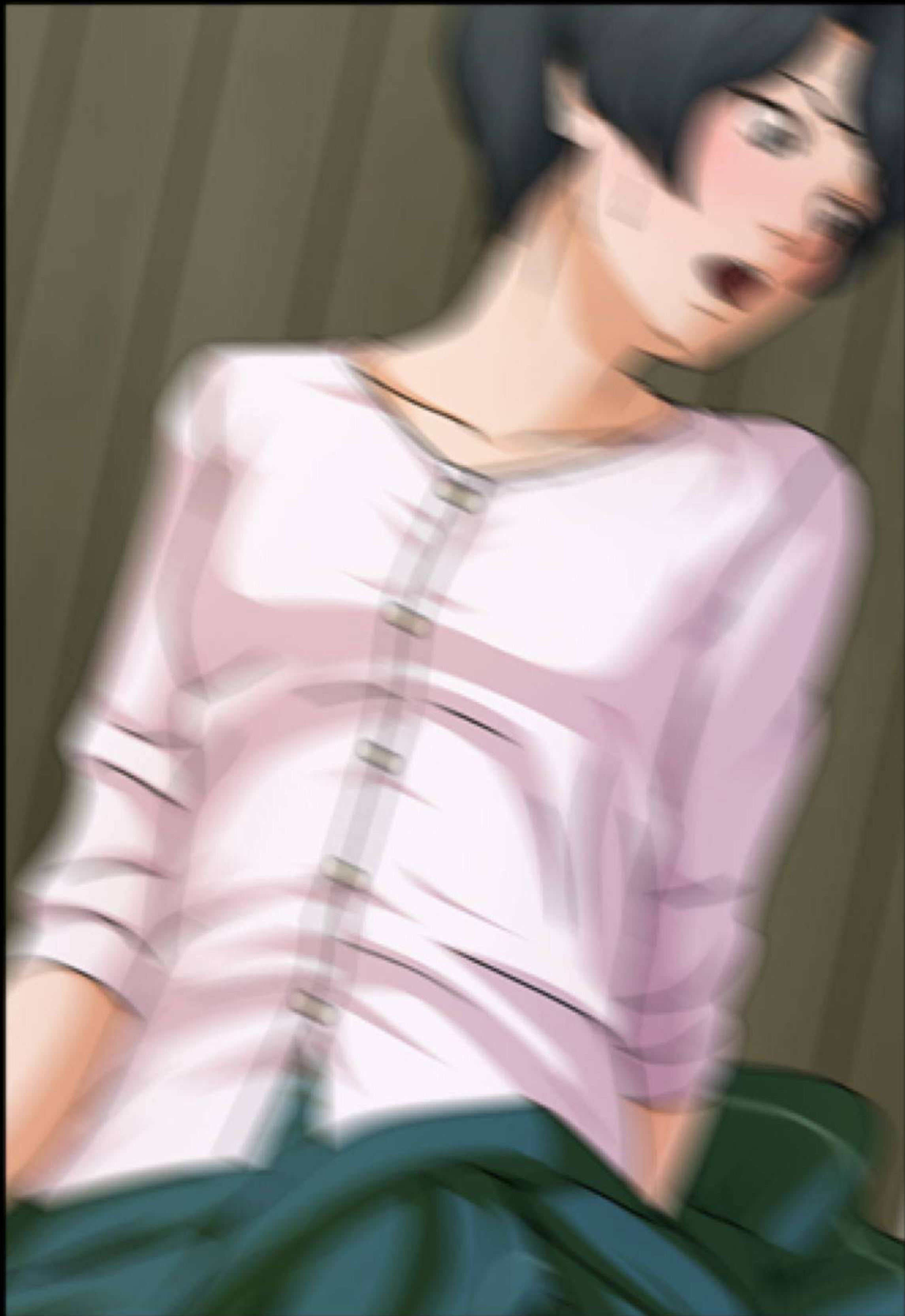


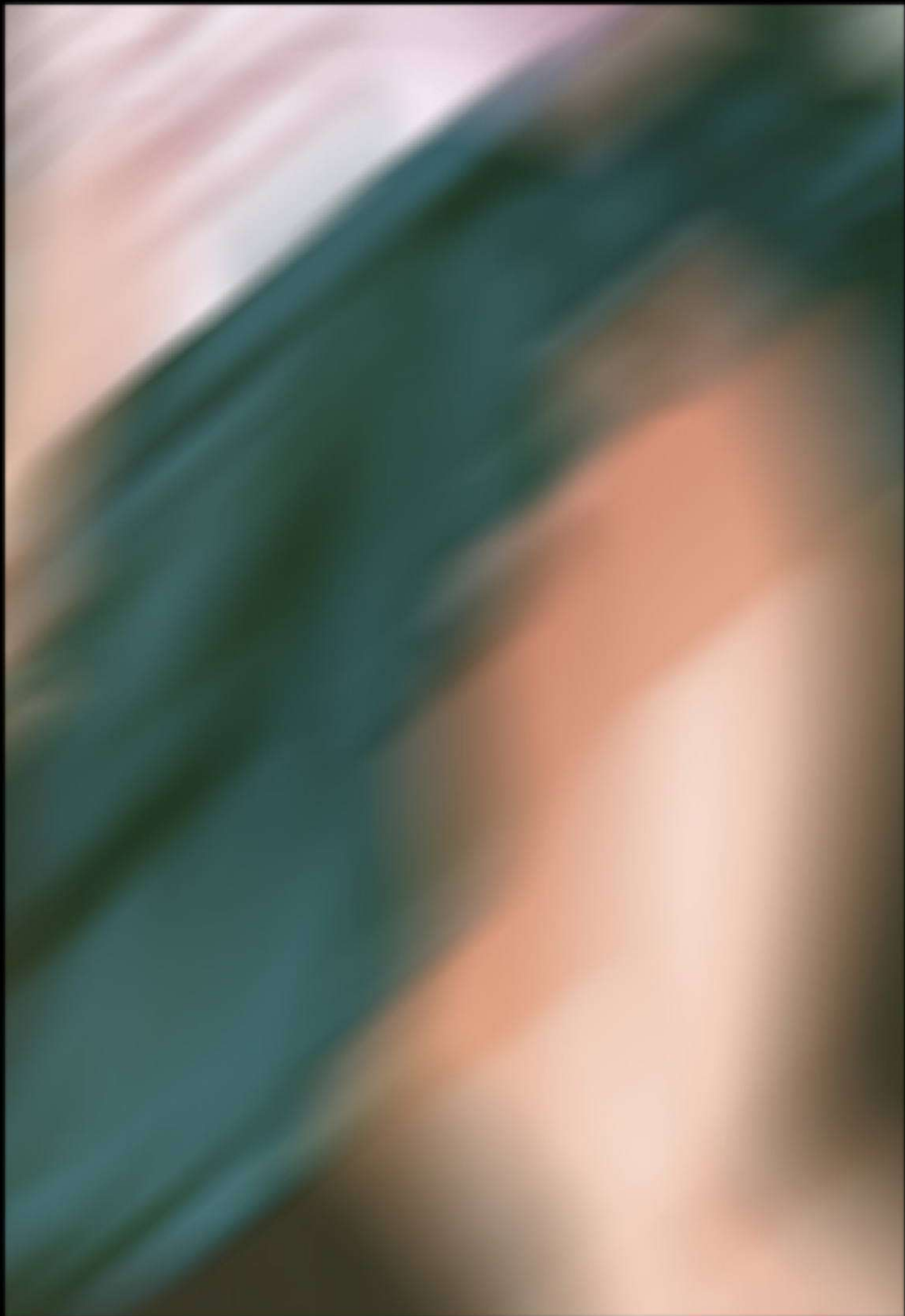
























女流棋士二段  
大野千里



女流棋士二段  
大野千里

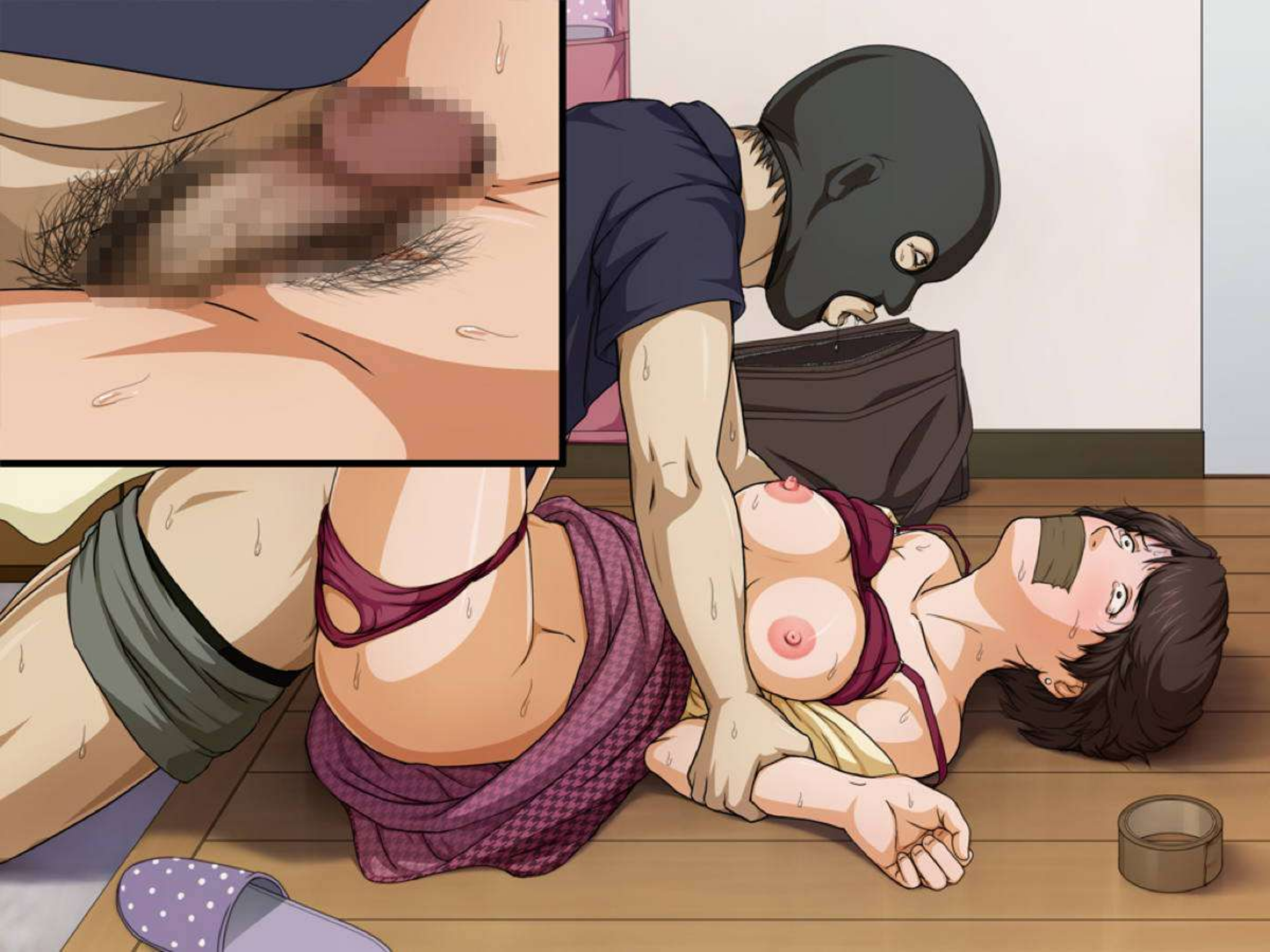


女流棋士二段  
大野千里















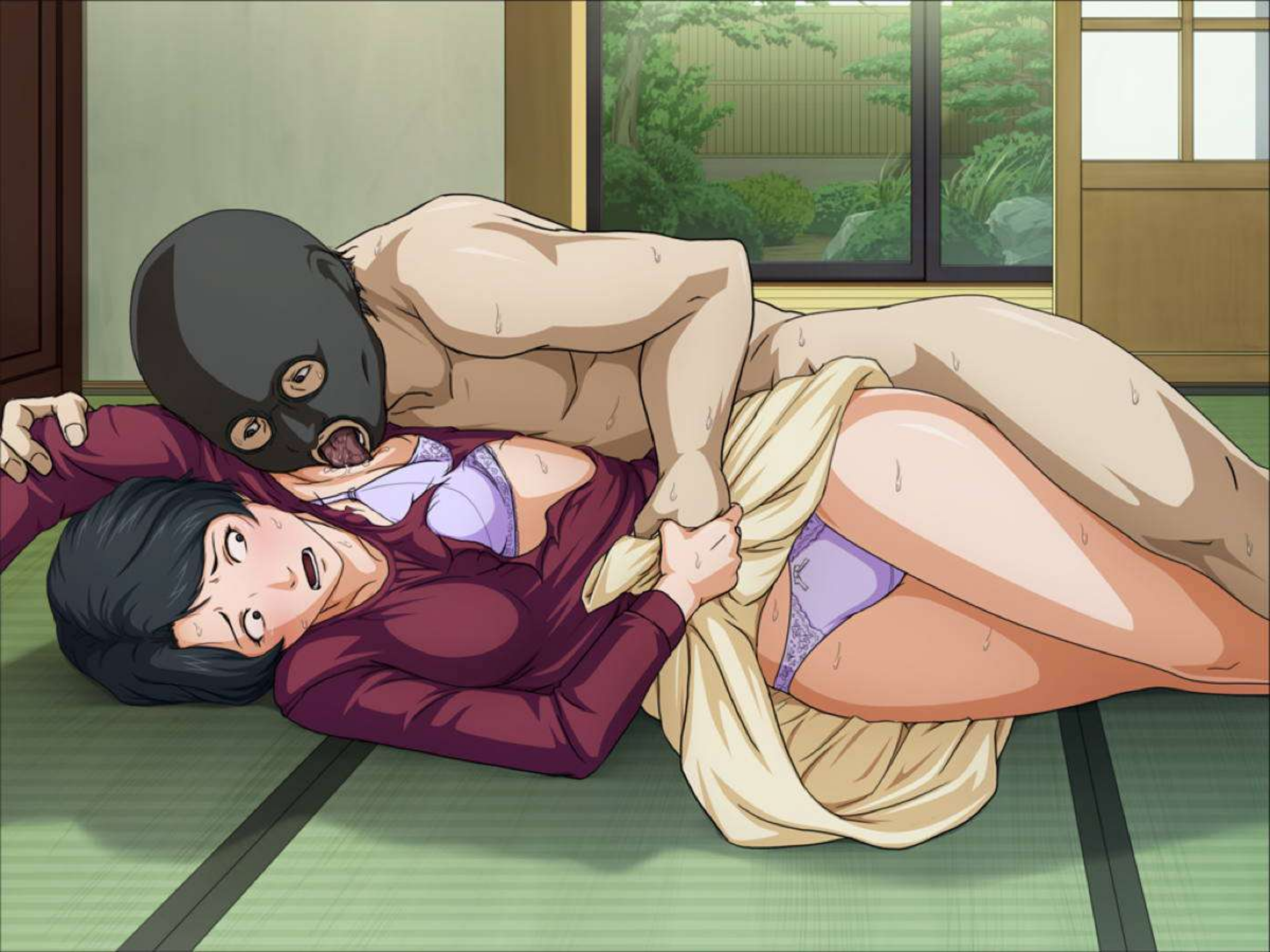


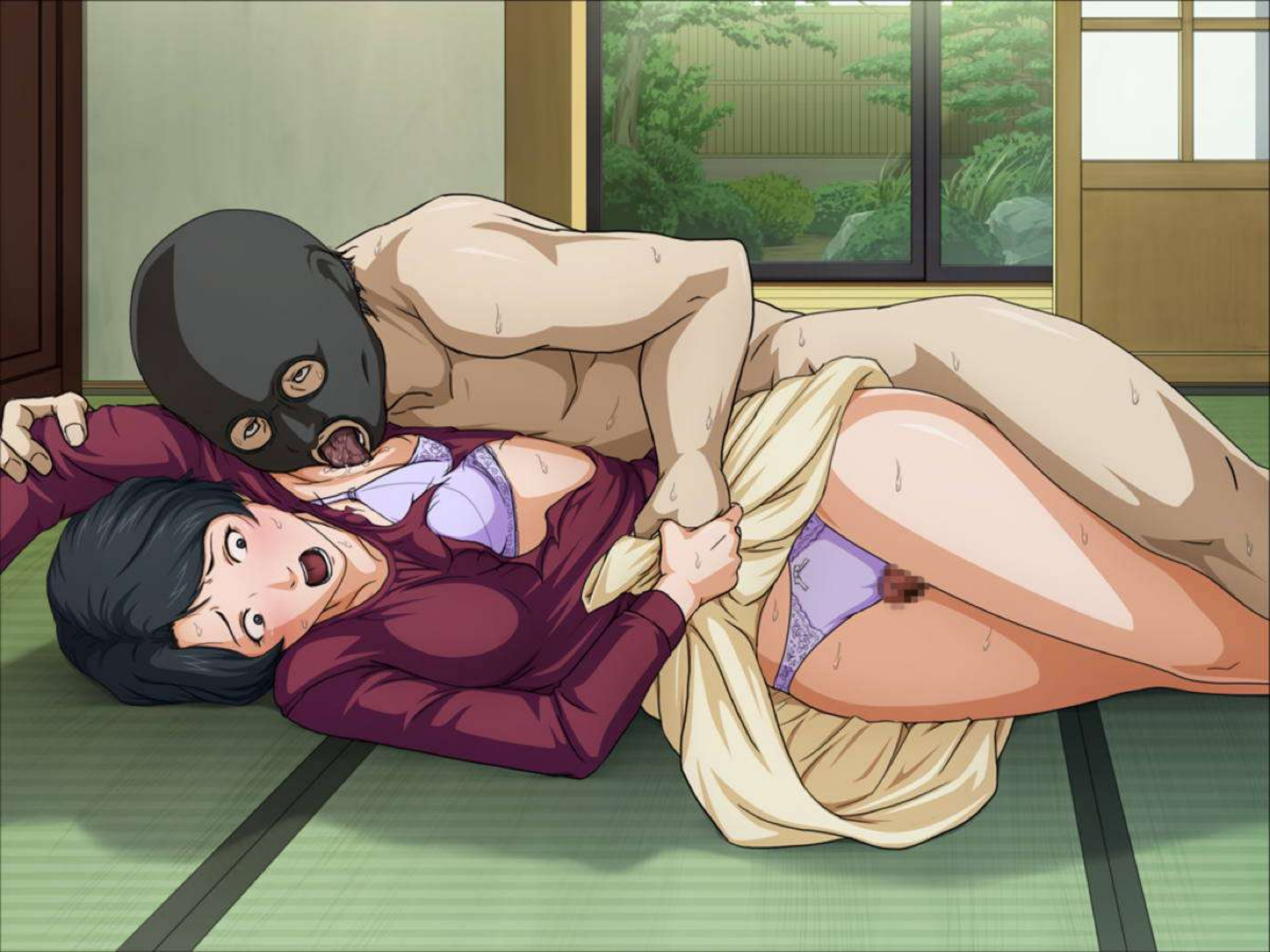


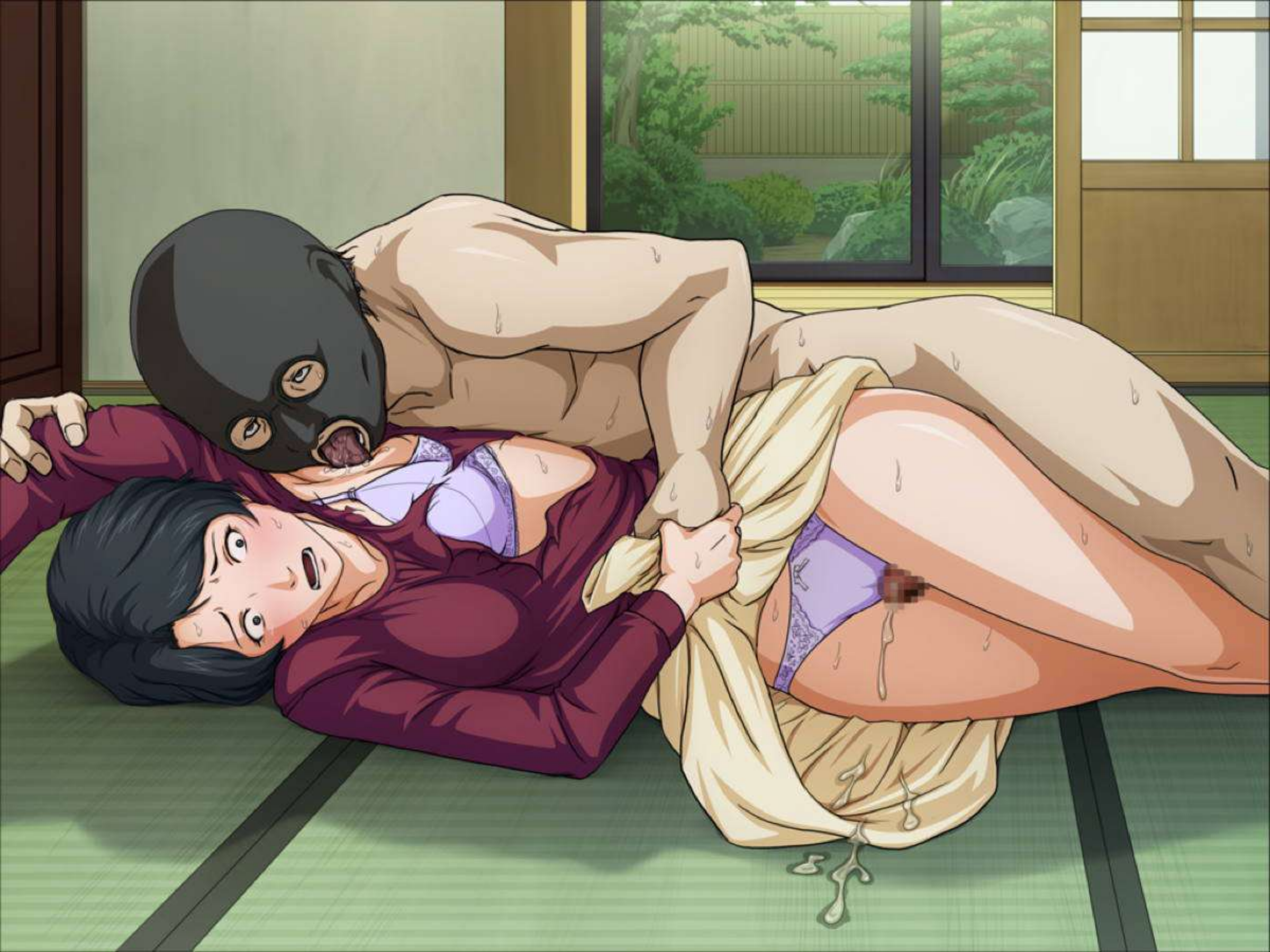


































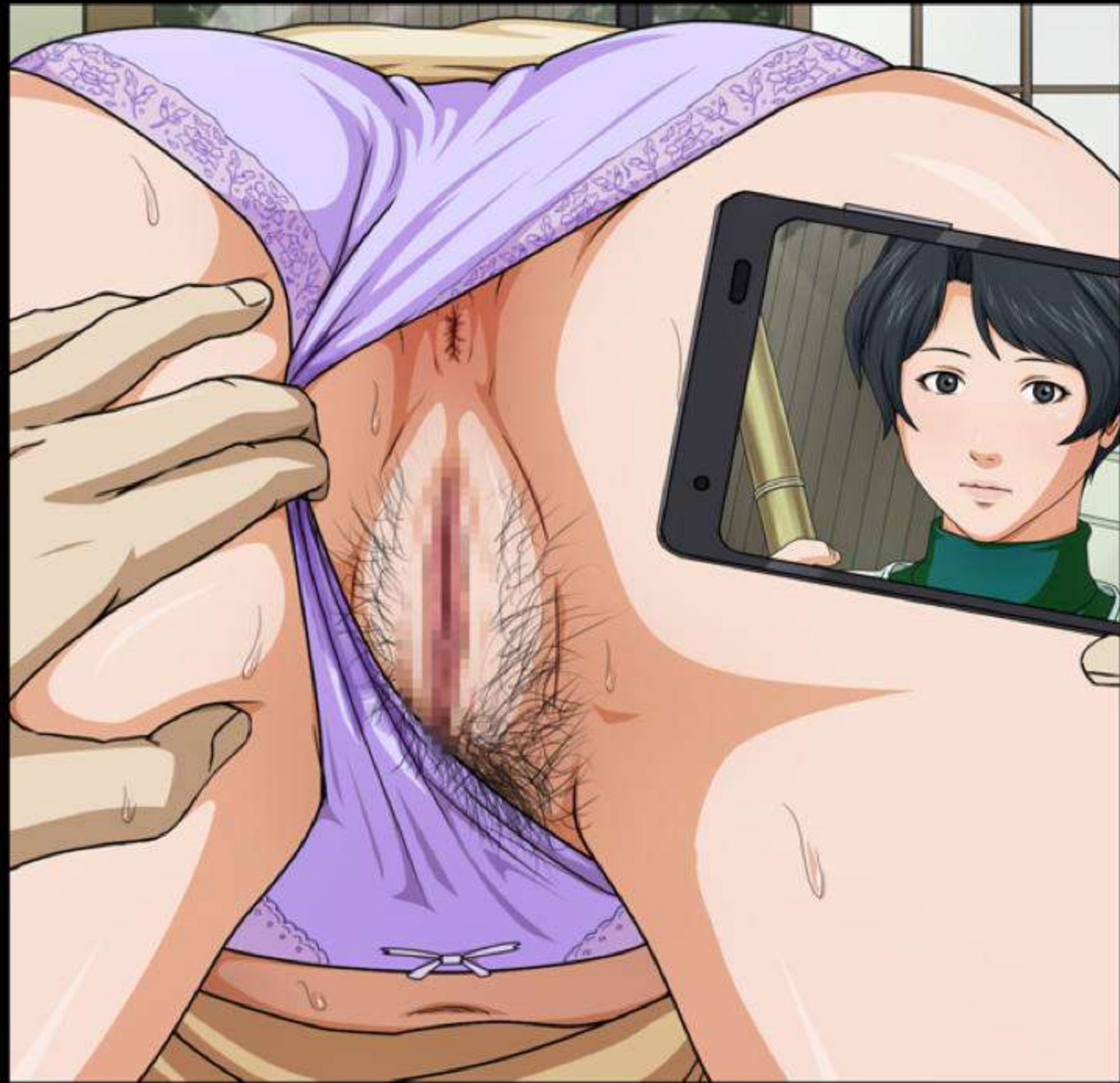


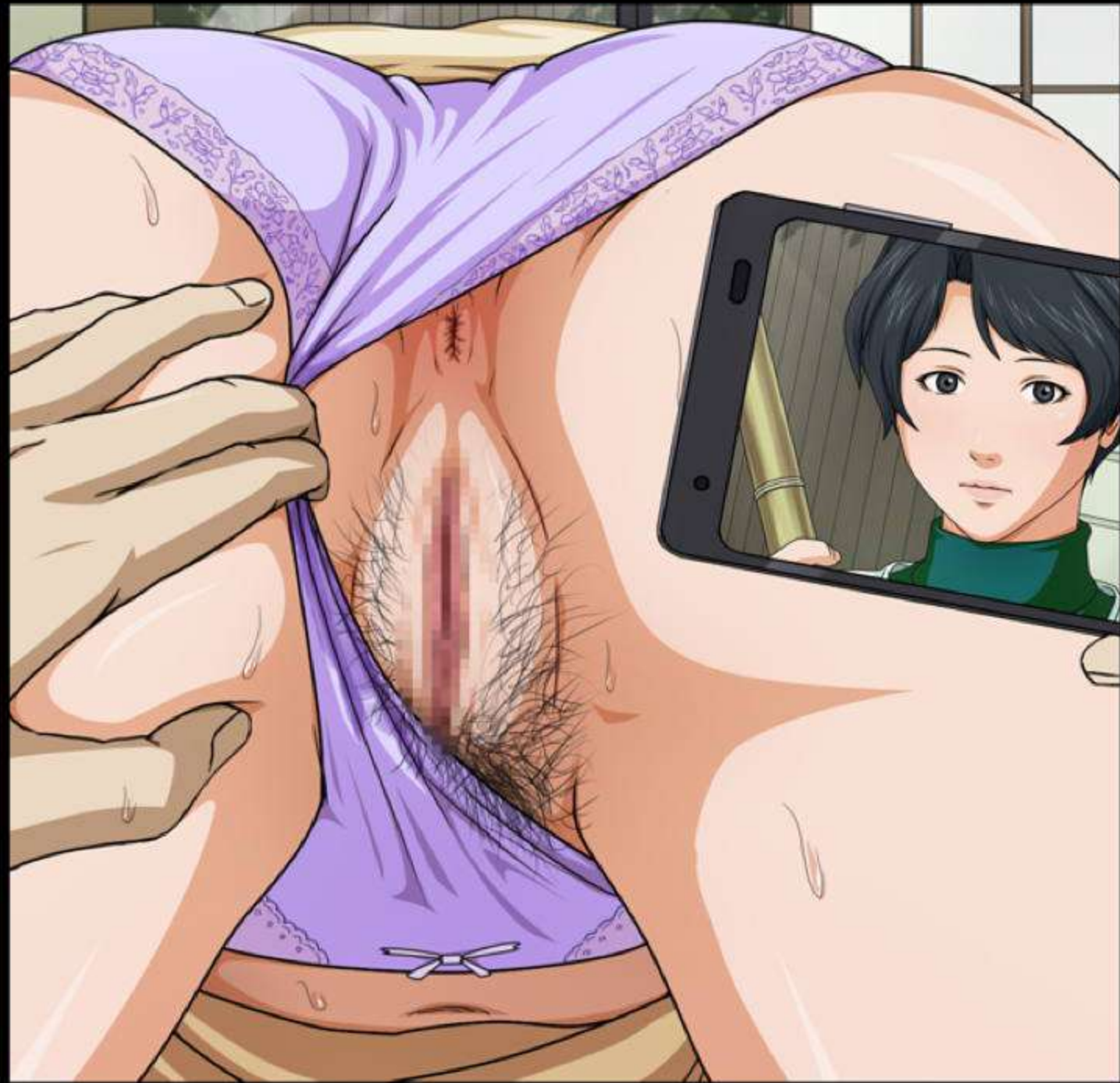






















































● REC

00:00:07

